



Call Home の設定

Call Home 機能は、クリティカルなシステム イベントを E メールおよび Web 上で通知します。ポケットベル サービス、通常の電子メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの適切な互換性のために、さまざまなメッセージの形式が使用できます。この機能の一般的な使用方法には、ネットワーク サポート技術者の直接ページング、ネットワーク オペレーション センターへの E メール通知、サポート Web サイトへの XML の送信、シスコのテクニカル サポート (TAC) での直接の事例生成のための Cisco Smart Call Home サービスの使用などがあります。このマニュアルでは、Cisco IOS XE Release 2.6 以降の Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータの Call Home 機能を設定する方法について説明します。

この章で紹介する機能情報の入手方法

お使いの Cisco IOS ソフトウェアが、このモジュールで説明されている機能の一部をサポートしていないことがあります。この章に記載されている特定の機能に関する説明へのリンク、および各機能がサポートされているリリースのリストについては、「[Call Home の機能情報](#)」(P.59) を参照してください。

プラットフォームと Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージのサポート情報の検索

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア イメージ、および Catalyst OS ソフトウェア イメージの各サポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

内容

この文書は、次の項で構成されています。

- 「[Call Home について](#)」(P.2)
- 「[Call Home の前提条件](#)」(P.3)
- 「[Call Home の設定方法](#)」(P.4)
- 「[Smart Call Home サービスをサポートするように Call Home を設定する方法](#)」(P.27)
- 「[Call Home 設定情報の表示](#)」(P.34)
- 「[デフォルト設定](#)」(P.39)
- 「[アラート グループの起動イベントとコマンド](#)」(P.40)
- 「[メッセージの内容](#)」(P.42)

- 「その他の参考資料」(P.57)
- 「Call Home の機能情報」(P.59)

Call Home について

Call Home を使用すると、E メールベースおよび Web ベースで重大なシステム イベントの通知を行います。ポケットベル サービス、通常の電子メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの適切な互換性のために、さまざまなメッセージの形式が使用できます。この機能の一般的な使用方法には、ネットワーク サポート技術者の直接ページング、ネットワーク オペレーション センターへの E メール通知、サポート Web サイトへの XML の送信、シスコのテクニカル サポート (TAC) での直接の事例生成のための Cisco Smart Call Home サービスの使用などがあります。

Call Home 機能では、設定、診断、環境条件、インベントリ、システム イベントについての情報を含むアラート メッセージを送信できます。

Call Home 機能では、*Call Home* 宛先プロファイルに従って複数の受信者にアラートを送信できます。宛先プロファイルには、メッセージ形式とコンテンツのカテゴリを設定できます。定義済みの宛先プロファイル (CiscoTAC-1) が提供されており、独自の宛先プロファイルを定義することもできます。CiscoTAC-1 プロファイルを使用して、Cisco TAC へのサービス要求の作成に使用できる Smart Call Home サービスのバック エンド サーバに (デバイスに提供される Smart Call Home サービス サポート およびアラートの重大度に応じて) アラートを送信します。

柔軟なメッセージの配信オプションとフォーマット オプションにより、個別のサポート要件を簡単に統合できます。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Call Home を使用するメリット」(P.2)
- 「Smart Call Home サービスの入手方法」(P.3)

Call Home を使用するメリット

Call Home 機能には次のようなメリットがあります。

- 複数のメッセージ形式オプション
 - ショート テキスト：ポケットベルまたは印刷形式のレポートに最適。
 - プレーン テキスト：人間が読むのに適した形式に完全整形されたメッセージ情報。
 - XML：Extensible Markup Language (XML) および Adaptive Markup Language (AML) 文書型定義 (DTD) を使用した読み取り可能なマッチング形式。XML 形式により、Cisco Smart Call Home サーバとの通信が可能。
- 複数のメッセージ宛先への同時配信が可能。
- 設定、診断、環境条件、コンポーネント、Syslog イベントを含む複数のメッセージ カテゴリ。
- 重大度とパターンマッチによるメッセージのフィルタリング
- 定期的なメッセージ送信のスケジューリング

Smart Call Home サービスの入手方法

シスコと直接サービス契約を結んでいる場合は、Cisco Smart Call Home サービス用の Call Home デバイスを登録できます。Smart Call Home では、お使いのデバイスから送信された Call Home メッセージを分析し、背景説明と推奨事項を提供することによって、システムの問題をすばやく解決できます。既知と特定できる問題のため、Cisco TAC で自動サービス リクエストを生成できます。これは、デバイスの Smart Call Home サービス サポートおよびアラートの重大度によって異なります。

Smart Call Home には、次の機能があります。

- デバイスから送られた Call Home メッセージの分析。サポートされている場合は、自動サービス要求が作成され、詳細な診断情報を含め、適切な TAC チームにルーティングされて、問題解決の高速化が実現されます。
- 継続的なデバイス ヘルス モニタリング。
- ご使用のデバイスから送信された Call Home メッセージの分析。
- お使いのデバイスから直接、またはダウンロード可能な転送ゲートウェイ (TG) 集約ポイントを介して転送されたメッセージのセキュリティ保護。複数のデバイスをサポートする必要がある場合や、セキュリティ要件によってデバイスがインターネットに直接接続されないことが必要とされる場合は、TG 集約ポイントを使用できます。
- あらゆる Call Home デバイスの Call Home メッセージおよび推奨事項、インベントリ情報、設定情報への Web アクセス。関連付けられたフィールド通告、セキュリティ勧告、およびサポート終了日情報にアクセスできます。

次の項目を登録する必要があります。

- ルータの SMARTnet 契約番号
- 電子メール アドレス
- Cisco.com ID

Call Home を Smart Call Home サービスと連動するように設定する方法については、「[Smart Call Home サービスをサポートするように Call Home を設定する方法](#)」(P.27) を参照してください。

Smart Call Home の詳細については、次の URL の Smart Call Home ページを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps7334/serv_home.html

Call Home の前提条件

Call Home の設定方法は、機能の使用目的によって異なります。Call Home を設定する前に次の要件に注意してください。

- レシーバが受信メッセージの発信元を判別できるように設定された、Call Home 連絡先用の電子メール、電話番号、および住所の情報を取得します。
- 電子メール メッセージ配信を使用している場合は、プライマリ Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) の名前または IPv4 アドレスを指定します。
- セキュア HTTP (HTTPS) メッセージ配信を使用している場合は、トラスト ポイント認証局 (CA) を設定します。たとえば、Call Home の CiscoTAC-1 プロファイルで Cisco Smart Call Home サービス用に HTTPS サーバを使用している場合、この手順は必須です。
- ルータから電子メール サーバ (1 つまたは複数) または宛先 HTTP サーバへの IP 接続を確認します。

- Cisco Smart Call Home を使用する場合は、設定するデバイスが有効なサービス契約の対象となっていることを確認します。

Call Home の設定方法

Call Home を設定するには、次の作業を実行します。

- 「管理インターフェイス VRF の設定」(P.4) (必須)
- 「宛先プロファイルの設定」(P.5) (必須)
- 「アラート グループへの登録」(P.18) (必須)
- 「担当者情報の設定」(P.21) (必須)
- 「Call Home メッセージの 1 分あたりの送信数の設定」(P.23) (任意)
- 「Call Home のイネーブルおよびディセーブル」(P.23) (必須)
- 「Call Home 通信の手動送信」(P.24) (任意)

管理インターフェイス VRF の設定

Cisco ASR 1000 シリーズ ルータの Call Home 機能は、ギガビットイーサネット管理インターフェイスの仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを使用する必要があります。ギガビットイーサネット管理インターフェイスは、自動的に、「Mgmt-intf」という名前の VRF の一部になります。

管理インターフェイスの VRF を設定するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface GigabitEthernet 0**
3. **vrf forwarding Mgmt-intf**
4. **ip address ip-address mask [secondary [vrf vrf-name]]**

または

```
ipv6 address {X:X:X:X::X link-local | X:X:X:X::X/prefix [anycast | eui-64] | autoconfig [default]}
```

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>interface GigabitEthernet 0</code> 例： Router(config)# <code>interface GigabitEthernet0</code>	(必須) Cisco ASR 1000 シリーズ ルータのギガビットイーサネット管理インターフェイスを指定します。
ステップ3	<code>vrf forwarding Mgmt-intf</code> 例： Router(config-if)# <code>vrf forwarding Mgmt-intf</code>	(必須) ギガビットイーサネット管理インターフェイスと Mgmt-intf VRF を関連付けます。このコマンドはデフォルトで設定されます。
ステップ4	<code>ip address ip-address mask [secondary [vrf vrf-name]]</code> または <code>ipv6 address {X:X:X:X::X link-local X:X:X:X::X/prefix [anycast eui-64] autoconfig [default]}</code> 例： Router(config-if)# <code>ip address 10.10.10.10 0.0.0.0</code>	(必須) インターフェイスの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。

次の作業

Cisco ASR 1000 シリーズ ルータのギガビットイーサネット管理インターフェイスの詳細を確認する、または管理インターフェイスに関連する追加の設定タスクを実行するには、「[管理イーサネット インターフェイスの使用](#)」(P.1) を参照してください。

宛先プロファイルの設定

宛先プロファイルには、アラート通知に必要な送信情報が含まれています。1 つまたは複数のタイプの複数の宛先プロファイルを設定できます。

新しい宛先プロファイルを作成して定義したり、宛先プロファイルをコピーして使用することもできます。新しい宛先プロファイルを定義する場合は、プロファイル名を割り当てる必要があります。



(注) Call Home 機能は、デフォルトで非アクティブな CiscoTAC-1 という名前の事前に定義されたプロファイルを提供します。CiscoTAC-1 プロファイルは、Smart Call Home サービスで使用することを目的としており、このサービスを Call Home 機能でイネーブルにするための特定の追加設定手順が必要です。このプロファイルの詳細については、「[定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用](#)」(P.17) を参照してください。

宛先プロファイルには、次の属性を設定できます。

- プロファイル名：ユーザ定義宛先プロファイルを一意に識別する文字列。プロファイル名は 31 文字までで、大文字と小文字は区別されません。プロファイル名として **all** は使用できません。
- 転送方法：アラートを送信するための転送メカニズム（E メールまたは HTTP（HTTPS を含む））。
 - ユーザ定義の宛先プロファイルの場合、E メールがデフォルトで、どちらかまたは両方の転送メカニズムをイネーブルにできます。両方の方法をディセーブルにすると、E メールがイネーブルになります。
 - あらかじめ定義された Cisco TAC プロファイルの場合、いずれかの転送メカニズムをイネーブルにできますが、同時にはイネーブルにできません。
- 宛先アドレス：アラートを送信する転送方法に関連した実際のアドレス。
- メッセージ形式：アラートの送信に使用するメッセージ形式。ユーザ定義宛先プロファイルの形式オプションは、ロングテキスト、ショートテキスト、または XML です。デフォルトは XML です。定義済みのシスコ TAC プロファイルの場合、XML しか使用できません。Cisco Smart Call Home サービスを使用する場合、宛先プロファイルは XML メッセージ形式を使用する必要があります。
- メッセージサイズ：宛先メッセージの最大サイズ。有効な範囲は、50 ～ 3,145,728 バイトで、デフォルトは 3,145,728 バイトです。

ここでは、次の作業について説明します。

- 「電子メール メッセージを送信するように宛先プロファイルを設定」 (P.6)
- 「HTTP メッセージを送信するように宛先プロファイルを設定」 (P.11)
- 「宛先プロファイルの操作」 (P.14)

電子メール メッセージを送信するように宛先プロファイルを設定

電子メール メッセージを送信するように Call Home を設定するには、次の作業を実行します。

- 「メール サーバの設定」 (P.6)
- 「管理インターフェイス VRF と Call Home の関連付け」 (P.7)
- 「電子メールの宛先プロファイルの設定」 (P.8)
- 「その他の電子メール オプションの設定」 (P.10)

メール サーバの設定

E メール メッセージ転送を使用するには、Simple Mail Transfer Protocol (SMTP; シンプル メール転送プロトコル) E メール サーバアドレスを少なくとも 1 つ設定する必要があります。最大で合計 5 つのメール サーバ定義に対し、最大 4 つのバックアップ電子メール サーバを指定できます。

メール サーバを設定する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- バックアップ E メール サーバは、異なるプライオリティ番号を使用して、**mail-server** コマンドを繰り返すと定義できます。
- **mail-server priority number** パラメータは 1 ～ 100 に設定できます。プライオリティが最も高い（プライオリティ番号が最も低い）サーバを最初に試します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**

3. mail-server {ipv4-address | name} priority number

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>mail-server {ipv4-address name} priority number</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>mail-server smtp.example.com priority 1</code>	電子メール サーバと設定済みの電子メール サーバ間の相対的優先度を指定します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>ipv4-address</code> : メール サーバの IPv4 アドレスを指定します。 • <code>name</code> : 電子メール サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を 64 文字以下で指定します。 • <code>number</code> : 1 (最高のプライオリティ) から 100 (最低のプライオリティ) の番号を割り当てます。

例：

次に、プライマリ メール サーバ（「smtp.example.com」という名前）と、IP アドレスが 192.168.0.1 のセカンダリ メール サーバの設定の例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# call-home
Router(cfg-call-home)# mail-server smtp.example.com priority 1
Router(cfg-call-home)# mail-server 192.168.0.1 priority 2
Router(cfg-call-home)# exit
Router(config)#
```

管理インターフェイス VRF と Call Home の関連付け

Call Home 機能は、管理インターフェイス VRF (Mgmt-intf) に電子メール メッセージ サポートを求めます。管理インターフェイス VRF を設定していない場合は、「[管理インターフェイス VRF の設定 \(P.4\)](#)」を参照してください。

管理インターフェイスの VRF と Call Home を関連付けるには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `call-home`
3. `vrf Mgmt-intf`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>vrf Mgmt-intf</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>vrf Mgmt-intf</code>	(必須) Call Home を使用して、電子メールの転送方式の Mgmt-intf VRF を関連付けます。

電子メールの宛先プロファイルの設定

電子メール転送の宛先プロファイルを設定するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `call-home`
3. `profile name`
4. `destination transport-method email`
5. `destination address email email-address`
6. `destination preferred-msg-format {long-text | short-text | xml}`
7. `destination message-size bytes`
8. `active`
9. `exit`
10. `end`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>profile name</code> 例： Router(config-call-home)# <code>profile profile1</code>	指定された宛先プロファイル名の Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。指定された宛先プロファイルが存在しない場合、作成されず。
ステップ4	<code>destination transport-method email</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination transport-method email</code>	(任意) 電子メールのメッセージ転送方式を設定します。これはデフォルトです。
ステップ5	<code>destination address email email-address</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination address email myaddress@example.com</code>	(必須) Call Home メッセージを送信する宛先電子メールアドレスを設定します。
ステップ6	<code>destination preferred-msg-format {long-text short-text xml}</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination preferred-msg-format xml</code>	(任意) 使用するメッセージ形式を設定します。デフォルトは XML です。
ステップ7	<code>destination message-size bytes</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination message-size 3145728</code>	(任意) 宛先プロファイルの最大宛先メッセージ サイズ (50 ~ 3145728 バイト) を設定します。デフォルト値は 3145728 バイトです。
ステップ8	<code>active</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>active</code>	(任意) 宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、ユーザ定義プロファイルは作成時にイネーブルになります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ9	exit 例 : Router (cfg-call-home-profile) # exit	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、Call Home コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ10	end 例 : Router (cfg-call-home) # end	特権 EXEC モードに戻ります。

その他の電子メール オプションの設定

電子メールの転送方式では、次の手順を実行して、電子メールの送受信アドレスを設定することもできます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **sender from *email-address***
4. **sender reply-to *email-address***

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>sender from email-address</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>sender from username@example.com</code>	(任意) Call Home E メール メッセージの [from] フィールドに表示される E メールアドレスを割り当てます。アドレスが指定されていない場合は、連絡用の E メールアドレスが使用されます。
ステップ4	<code>sender reply-to email-address</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>sender reply-to username@example.com</code>	(任意) Call Home E メール メッセージの [reply-to] フィールドに表示される E メールアドレスを割り当てます。

HTTP メッセージを送信するように宛先プロファイルを設定

HTTP (または HTTPS) メッセージを送信するように Call Home を設定するには、次の作業を行います。

- 「[HTTP ソース インターフェイスの設定](#)」 (P.11)
- 「[HTTP の宛先プロファイルの設定](#)」 (P.12)
- 「[トラストポイント認証局の設定](#)」 (P.14)

HTTP ソース インターフェイスの設定

Call Home メッセージを送信するために HTTP または HTTPS を使用している場合、HTTP クライアントの送信元インターフェイスとして VRF 管理インターフェイスを設定する必要があります。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `ip http client source-interface type number`
3. `end`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>ip http client source-interface type number</code> 例： Router(config)# <code>ip http client source-interface gigabitethernet 0</code>	HTTP クライアントのソース インターフェイスを設定します。 (注) Cisco ASR 1000 シリーズ ルータでは、このインターフェイスは VRF 管理インターフェイスである必要があります。
ステップ3	<code>end</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

HTTP の宛先プロファイルの設定

http 転送の宛先プロファイルを設定するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `call-home`
3. `profile name`
4. `destination transport-method http`
5. `destination address http url`
6. `destination preferred-msg-format {long-text | short-text | xml}`
7. `destination message-size bytes`
8. `active`
9. `exit`
10. `end`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>profile name</code> 例： Router(config-call-home)# <code>profile test</code>	指定された宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。指定された宛先プロファイルが存在しない場合、作成されます。
ステップ4	<code>destination transport-method http</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination transport-method http</code>	HTTP メッセージの転送方法をイネーブルにします。
ステップ5	<code>destination address http url</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination address http https://example.url.com</code>	Call Home メッセージが送信される宛先 URL を設定します。 (注) 宛先 URL を入力する場合は、サーバがセキュアサーバであるかどうかに応じて <code>http://</code> または <code>https://</code> を指定します。宛先がセキュアサーバである場合、トラストポイント CA も設定する必要があります。
ステップ6	<code>destination preferred-msg-format {long-text short-text xml}</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination preferred-msg-format xml</code>	(任意) 使用するメッセージ形式を設定します。デフォルトは XML です。
ステップ7	<code>destination message-size bytes</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination message-size 3,145,728</code>	(任意) 宛先プロファイルの宛先メッセージの最大サイズを設定します。
ステップ8	<code>active</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>active</code>	宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、プロファイルは作成時にイネーブルになります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ9	<code>exit</code> 例： Router (cfg-call-home-profile) # <code>exit</code>	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、Call Home コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ10	<code>end</code> 例： Router (cfg-call-home) # <code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

トラストポイント認証局の設定

HTTP 転送方法を使用し、HTTPS 宛先 URL を指定している場合は、トラストポイント認証局 (CA) も設定する必要があります。

トラストポイント CA を設定する方法の詳細については、「[CA トラストポイントの宣言および認証 \(P.31\)](#)」を参照してください。この項では、Smart Call Home サービスで使用するためのセキュア Cisco サーバの CA のトラストポイントの設定方法を説明しますが、現場の必要に応じて、セキュアサーバに必要な証明書を使用して他のセキュアサーバの設定に適用できます。

宛先プロファイルの操作

この項では、宛先プロファイルで実行できるいくつかのタスクについて説明します。

- 「[宛先プロファイルのアクティブ化および非アクティブ化 \(P.14\)](#)」
- 「[宛先プロファイルのコピー \(P.15\)](#)」
- 「[宛先プロファイルの名前変更 \(P.16\)](#)」
- 「[定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用 \(P.17\)](#)」

宛先プロファイルのアクティブ化および非アクティブ化

定義済み CiscoTAC-1 プロファイルを除き、すべての Call Home 宛先プロファイルが作成時に自動的にアクティブになります。プロファイルをすぐに使用しない場合は、そのプロファイルを非アクティブ化できます。CiscoTAC-1 プロファイルは、デフォルトで非アクティブとなっており、使用するにはアクティブにする必要があります。

宛先プロファイルをアクティブまたは非アクティブにするには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `call-home`
3. `profile name`
4. `active`
5. `no active`
6. `end`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>profile name</code> 例： Router(config-call-home)# <code>profile test</code>	指定された宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。指定された宛先プロファイルが存在しない場合、作成されます。
ステップ4	<code>active</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>active</code>	宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、新しいプロファイルは作成時にイネーブルになります。
ステップ5	<code>no active</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>no active</code>	宛先プロファイルをディセーブルにします。
ステップ6	<code>end</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>end</code>	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

宛先プロファイルのコピー

既存のプロファイルをコピーして新しい宛先プロファイルを作成するには、次の手順に従います。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `call-home`
3. `copy profile source-profile target-profile`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>copy profile source-profile target-profile</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>copy profile profile1 profile2</code>	既存の宛先プロファイルと同じ設定で新しい宛先プロファイルを作成します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>source-profile</i> : 既存のプロファイルの名前を指定します。 • <i>target-profile</i> : プロファイルの新しいコピーに名前を指定します。

宛先プロファイルの名前変更

既存のプロファイルの名前を変更するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `call-home`
3. `rename profile source-profile target-profile`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>rename profile source-profile target-profile</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>rename profile2 testprofile</code>	既存のソース ファイルの名前を変更します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>source-profile</i> : 既存のプロファイルの名前を指定します。 • <i>target-profile</i> : 既存のプロファイルの新しい名前を指定します。

定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用

CiscoTAC-1 プロファイルは、Cisco Smart Call Home サービスで使用するために、Call Home 機能で自動的に設定されています。このプロファイルには、宛先電子メールアドレスや HTTPS URL などの特定の情報、および Smart Call Home サービスと通信するためのデフォルトのアラート グループが含まれています。宛先電子メールアドレス、HTTPS URL、メッセージ形式など、一部の属性は変更できません。

電子メールまたは HTTP 転送を使用して、Smart Call Home サービスのバックエンド サーバと通信できます。デフォルトでは、CiscoTAC-1 プロファイルは非アクティブであり、デフォルトの転送方法として電子メールが使用されます。電子メール転送を使用するには、このプロファイルをイネーブルにするだけです。ただし、(HTTPS を介して) Cisco Smart Call Home サービス セキュア サーバでこのプロファイルを使用する場合は、プロファイルをイネーブルにするだけでなく、次の例に示すように、転送方法を HTTP に変更することも必要です。

```
Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile CiscoTAC-1
Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method http
Router(cfg-call-home-profile)# active
```

Smart Call Home サービスを設定するための追加要件の詳細については、「[Smart Call Home サービスをサポートするように Call Home を設定する方法](#)」(P.27) を参照してください。

Call Home プロファイルの設定の確認

Call Home のプロファイル設定を確認するには、`show call-home profile` コマンドを使用します。詳細および例については、「[Call Home 設定情報の表示](#)」(P.34) を参照してください。

アラート グループへの登録

アラート グループは、すべてのルータでサポートされている Call Home アラートをあらかじめ定義したサブセットです。Call Home アラートはタイプごとに別のアラート グループにグループ化されます。次のアラート グループは、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータで使用可能です。

- Configuration
- Diagnostic
- Environment
- Inventory
- Syslog

各アラート グループの起動イベントは「アラート グループの起動イベントとコマンド」(P.40) に示しています。アラート グループ メッセージの内容は「メッセージの内容」(P.42) に示しています。

宛先プロファイルごとに受信するアラート グループを 1 つまたは複数選択できます。



(注) Call Home アラートは、その Call Home アラートが含まれているアラート グループに登録されている宛先プロファイルにしか送信されません。さらに、アラート グループをイネーブルにする必要があります。

定期通知

Configuration または Inventory アラート グループに宛先プロファイルを登録すると、指定した期間に定期的にはまたは非同期にアラート グループ メッセージを受信するよう選択できます。送信期間は、次のいずれかにできます。

- 毎日：24 時間の時間:分形式 *hh:mm* (例：14:30) で送信する時刻を指定します。
- 毎週：*day hh:mm* という形式で曜日と時刻を指定します。ここで、*day* は曜日をスペルアウトします (例：monday)。
- 毎月：*date hh:mm* という形式で 1 ~ 31 の日と時刻を指定します。

メッセージ重大度しきい値

宛先プロファイルを、Environment、または Syslog アラート グループに登録すると、メッセージの重大度に基づいてアラート グループ メッセージを送信するしきい値を設定できます。宛先プロファイルに指定されたしきい値よりも低い重大度のメッセージは、宛先に送信されません。



(注) syslogs レベルが IOS CLI を介して変更された場合、新しい値が IOS 以外のプロセスにもプロパゲートされ、これらのプロセスは IOS にとって優先度の低い syslog メッセージを送信しなくなり、IOS のための CPU サイクルを「確保」します。

表 1 に、[catastrophic] (レベル 9、緊急レベルが最高) から [Debugging] (レベル 0、緊急レベルが最低) の重大度を設定するために使用されるキーワードを一覧表示します。重大度しきい値が設定されていない場合、デフォルトは **debugging** (レベル 0) です。ただし、トリガーされるメッセージの数を理由に、デフォルトは推奨されません。



(注) Call Home の重大度は、システム メッセージ ログの重大度とは異なります。

表 1 重大度と Syslog レベルのマッピング

レベル	キーワード	Syslog レベル	説明
9	catastrophic	該当なし	ネットワーク全体に壊滅的な障害が発生しています。
8	disaster	該当なし	ネットワークへの重大な影響。
7	fatal	緊急 (0)	システムが使用不可能な状態。
6	critical	アラート (1)	クリティカルな状態、ただちに注意が必要。
5	major	重要 (2)	重大な状態。
4	minor	エラー (3)	軽微な状態。
3	warning	警告 (4)	警告状態。
2	notification	通知 (5)	基本的な通知と情報メッセージ。他と関係しない、重要性の低い障害。
1	normal	情報 (6)	標準状態に戻ることを示す標準イベント。
0	debugging	デバッグ (7)	デバッグ メッセージ。

Syslog パターン マッチング

宛先プロファイルを Syslog アラート グループに登録すると、各 syslog メッセージ内で一致するテキストパターンを任意で指定できます。パターンを設定すると、指定されたパターンが含まれ、重大度しきい値に一致する場合にだけ Syslog アラート グループ メッセージが送信されます。パターンにスペースが含まれている場合、設定時には二重引用符 (" ") で囲む必要があります。宛先プロファイルごとにパターンを 5 つまで指定できます。

宛先プロファイルを 1 つまたは複数のアラート グループに加入させる場合、次の手順に従います。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **alert-group {all | configuration | environment | inventory | syslog}**
4. **profile name**
5. **subscribe-to-alert-group all**
6. **subscribe-to-alert-group configuration [periodic {daily hh:mm | monthly date hh:mm | weekly day hh:mm}]**
7. **subscribe-to-alert-group diagnostic [severity {catastrophic | critical | debugging | disaster | fatal | major | minor | normal | notification | warning}]**
8. **subscribe-to-alert-group environment [severity {catastrophic | critical | debugging | disaster | fatal | major | minor | normal | notification | warning}]**
9. **subscribe-to-alert-group inventory [periodic {daily hh:mm | monthly date hh:mm | weekly day hh:mm}]**
10. **subscribe-to-alert-group syslog [severity {catastrophic | critical | debugging | disaster | fatal | major | minor | normal | notification | warning}] [pattern string]**
11. **exit**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>alert-group {all configuration environment inventory syslog}</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>alert-group all</code>	指定されたアラート グループをイネーブルにします。すべてのアラート グループをイネーブルにするには、 all キーワードを使用します。デフォルトでは、すべてのアラート グループがイネーブルになります。
ステップ4	<code>profile name</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>profile profile1</code>	指定された宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ5	<code>subscribe-to-alert-group all</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>subscribe-to-alert-group all</code>	(任意) 使用可能なすべてのアラート グループにこの宛先プロファイルを登録します。 (注) または、ステップ 6～9 で説明しているように、特定のタイプごとにアラート グループに個別に加入することもできます。
ステップ6	<code>subscribe-to-alert-group configuration [periodic {daily hh:mm monthly date hh:mm weekly day hh:mm}]</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>subscribe-to-alert-group configuration periodic daily 12:00</code>	オプションの periodic 値で、この宛先プロファイルを [Configuration] アラート グループに登録します。
ステップ7	<code>subscribe-to-alert-group diagnostic [severity {catastrophic critical debugging disaster fatal major minor normal notification warning}]</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>subscribe-to-alert-group diagnostic severity critical</code>	オプションの severity 値で、この宛先プロファイルを [Diagnostic] アラート グループに登録します。
ステップ8	<code>subscribe-to-alert-group environment [severity {catastrophic critical debugging disaster fatal major minor normal notification warning}]</code> 例： Router(cfg-call-home-profile)# <code>subscribe-to-alert-group environment severity major</code>	オプションの severity 値で、この宛先プロファイルを [Environment] アラート グループに登録します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<pre>subscribe-to-alert-group inventory [periodic {daily hh:mm monthly date hh:mm weekly day hh:mm}]</pre> <p>例:</p> <pre>Router(cfg-call-home-profile)# subscribe-to-alert-group inventory periodic monthly 1 12:00</pre>	オプションの periodic 値で、この宛先プロファイルを [Inventory] アラート グループに登録します。
ステップ 10	<pre>subscribe-to-alert-group syslog [severity {catastrophic critical debugging disaster fatal major minor normal notification warning}][pattern string]</pre> <p>例:</p> <pre>Router(cfg-call-home-profile)# subscribe-to-alert-group syslog</pre>	オプションの severity 値で、この宛先プロファイルを [Syslog] アラート グループに登録します。syslog メッセージに一致するパターンをプロファイルごとに最大 5 つまで指定できます。パターンにスペースが含まれている場合、二重引用符 (" ") で囲む必要があります。
ステップ 11	<pre>exit</pre> <p>例:</p> <pre>Router(cfg-call-home-profile)# exit</pre>	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。

担当者情報の設定

ルータには必ず連絡用の E メール アドレスが必要です。任意で、電話番号、住所、契約 ID、カスタマー ID、サイト ID を割り当てることができます。

連絡先情報を割り当てるには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **contact-email-addr** *email-address*
4. **phone-number** *+phone-number*
5. **street-address** *street-address*
6. **customer-id** *text*
7. **site-id** *text*
8. **contract-id** *text*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router> <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>contact-email-addr email-address</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>contact-email-addr username@example.com</code>	カスタマーの E メール アドレスを割り当てます。E メール アドレス フォーマットにはスペースなしで最大 200 文字まで入力できます。
ステップ4	<code>phone-number +phone-number</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>phone-number +1-222-333-4444</code>	(任意) カスタマーの電話番号を割り当てます。 (注) 番号はプラス (+) 記号で始まり、ダッシュ (-) と数字だけが含まれるようにしてください。最大 16 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (" ") で囲む必要があります。
ステップ5	<code>street-address street-address</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>street-address "1234 Any Street, Any city, Any state, 12345"</code>	(任意) RMA 機器の配送先であるカスタマーの住所を割り当てます。最大 200 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (" ") で囲む必要があります。
ステップ6	<code>customer-id text</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>customer-id Customer1234</code>	(任意) カスタマー ID を指定します。最大 64 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (" ") で囲む必要があります。
ステップ7	<code>site-id text</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>site-id Site1ManhattanNY</code>	(任意) カスタマーのサイト ID を指定します。最大 200 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (" ") で囲む必要があります。
ステップ8	<code>contract-id text</code> 例： Router(cfg-call-home)# <code>contract-id Company1234</code>	(任意) ルータのカスタマーの契約 ID を指定します。最大 64 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (" ") で囲む必要があります。

例

次に、連絡先情報の設定例を示します。

```
Router# configure terminal
```

```

Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# call-home
Router(cfg-call-home)# contact-email-addr username@example.com
Router(cfg-call-home)# phone-number +1-222-333-4444
Router(cfg-call-home)# street-address "1234 Any Street, Any city, Any state, 12345"
Router(cfg-call-home)# customer-id Customer1234
Router(cfg-call-home)# site-id Site1ManhattanNY
Router(cfg-call-home)# contract-id Company1234
Router(cfg-call-home)# exit

```

Call Home メッセージの 1 分あたりの送信数の設定

Call Home 機能は、デフォルトで 1 分あたり最大 20 のメッセージを送信します。この値を変更するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **rate-limit** *number*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	call-home 例： Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	rate-limit <i>number</i> 例： Router(cfg-call-home)# rate-limit 40	1 分間に送信するメッセージ数の制限を指定します。範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 20 です。

Call Home のイネーブルおよびディセーブル

Call Home 機能をイネーブルまたはディセーブルにするには、次の手順に従います。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **service call-home**
3. **no service call-home**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>service call-home</code> 例： Router(config)# <code>service call-home</code>	Call Home 機能をイネーブルにします。
ステップ3	<code>no service call-home</code> 例： Router(config)# <code>no service call-home</code>	Call Home 機能をディセーブルにします。

Call Home 通信の手動送信

数種類の Call Home 通信を手動で送信できます。Call Home 通信を送信するには、この項の作業を実行します。ここでは、次の内容について説明します。

- 「Call Home テスト メッセージの手動送信」 (P.24)
- 「Call Home アラート グループ メッセージの手動送信」 (P.24)
- 「Call Home 分析およびレポート要求の送信」 (P.25)
- 「シスコまたは E メール アドレスへのコマンド出力の送信」 (P.27) t

Call Home テスト メッセージの手動送信

`call-home test` コマンドを使用して、ユーザ定義の Call Home テスト メッセージを送信できます。

手順の概要

1. `call-home test ["test-message"] profile name`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>call-home test ["test-message"] profile name</code> 例： Router# <code>call-home test profile profile1</code>	指定された宛先プロファイルにテスト メッセージを送信します。ユーザ定義のテスト メッセージ テキストは任意ですが、スペースが含まれる場合は、引用符 (" ") で囲む必要があります。ユーザ定義のメッセージが設定されていない場合、デフォルト メッセージが送信されます。

Call Home アラート グループ メッセージの手動送信

`call-home send` コマンドを使用して、特定のアラート グループ メッセージを手動で送信できます。

Call Home アラート グループメッセージを手動で送信する場合は、次の注意事項に従ってください。

- Configuration、Diagnostic、または Inventory アラート グループは手動で送信できます。
- 手動でアラート グループ メッセージを起動し、宛先プロファイル名を指定すると、メッセージは、プロファイルのアクティブ ステータス、登録ステータス、または重大度の設定に関係なく、宛先プロファイルに送信されます。
- Configuration または Inventory アラート グループ メッセージを手動で起動し、宛先プロファイル名を指定しないと、normal または指定されたアラート グループへの定期的な登録に指定されたアクティブなプロファイルすべてにメッセージが送信されます。
- Diagnostic アラート グループ メッセージを手動で起動し、宛先プロファイル名を指定しないと、メッセージは、指定されたスロットよりも診断結果よりも重大度登録が低いすべての登録された宛先プロファイルに送信されます。

Call Home アラート グループ メッセージを手動でトリガーするには、次の手順に従います。

手順の概要

1. `call-home send alert-group configuration [profile name]`
2. `call-home send alert-group diagnostic slot R0 [profile name]`
3. `call-home send alert-group inventory [profile name]`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>call-home send alert-group configuration [profile name]</code> 例： Router# <code>call-home send alert-group configuration profile CiscoTAC-1</code>	宛先プロファイルの1つ（指定されている場合）または登録されているすべての宛先プロファイルに Configuration アラート グループ メッセージを送信します。
ステップ2	<code>call-home send alert-group diagnostic slot R0 [profile name]</code> 例： Router# <code>call-home send alert-group diagnostic slot R0 profile CiscoTAC-1</code>	指定されている場合は1つの宛先プロファイル、またはルートプロセッサスロット0の診断結果よりも重大度登録が低いすべての登録された宛先プロファイルに [Diagnostic] アラート グループ メッセージを送信します。
ステップ3	<code>call-home send alert-group inventory [profile name]</code> 例： Router# <code>call-home send alert-group inventory</code>	宛先プロファイルの1つ（指定されている場合）または登録されているすべての宛先プロファイルに Inventory アラート グループ メッセージを送信します。

Call Home 分析およびレポート要求の送信

`call-home request` コマンドを使用して、システム固有の便利な分析およびレポート情報を送信するため、システムに関する情報を Cisco Systems に送信できます。セキュリティの警告、既知のバグ、ベストプラクティス、コマンドリファレンスなど、さまざまなレポートを要求できます。

Call Home 分析およびレポート要求を手動で送信する場合、次の注意事項に従ってください。

- **profile name** を指定すると、要求はプロファイルに送信されます。プロファイルが指定されていない場合、要求は Cisco TAC プロファイルに送信されます。Call Home 要求の受信者プロファイルをイネーブルにする必要はありません。要求メッセージを Cisco TAC に転送し、Smart Call Home サービスから返信を受信できるように、転送ゲートウェイが設定された電子メールアドレスをプロファイルに指定します。
- **ccoid user-id** は、Smart Call Home ユーザの登録 ID です。**user-id** を指定すると、応答は登録ユーザの E メールアドレスに送信されます。**user-id** を指定しなければ、応答はデバイスの連絡先電子メールアドレスに送信されます。
- 要求するレポートのタイプを指定するキーワードに基づいて、次の情報が返されます。
 - **config-sanity** : 現在の実行コンフィギュレーションに関連するベスト プラクティスの情報。
 - **bugs-list** : 実行中のバージョンおよび現在適用されている機能の既知のバグ。
 - **command-reference** : 実行コンフィギュレーションに含まれるすべてのコマンドへの参照リンク。
 - **product-advisory** : ネットワークのデバイスに影響する可能性のある Product Security Incident Response Team (PSIRT) 通知、End of Life (EOL) または End of Sales (EOS) 通知、あるいは Field Notice (FN)。

Cisco Output Interpreter ツールから分析およびレポート情報の要求を送信するには、次の手順に従います。

手順の概要

1. **call-home request output-analysis "show-command" [profile name] [ccoid user-id]**
2. **call-home request {config-sanity | bugs-list | command-reference | product-advisory} [profile name] [ccoid user-id]**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<pre>call-home request output-analysis "show-command" [profile name] [ccoid user-id]</pre> <p>例 : Router# call-home request output-analysis "show diag" profile TG</p>	<p>分析用として指定した show コマンドの出力を送信します。show コマンドは二重引用符 (" ") で囲む必要があります。</p>
ステップ2	<pre>call-home request {config-sanity bugs-list command-reference product-advisory} [profile name] [ccoid user-id]</pre> <p>例 : Router# call-home request config-sanity profile TG</p>	<p>分析のため、show running-config all および show version コマンドなど所定のコマンドセットの出力を送信します。また、call-home request product-advisory サブコマンドには、すべてのインベントリ アラート グループ コマンドが含まれます。call-home request コマンドのあとに指定するキーワードは、必要なレポートのタイプを示します。</p>

例

次に、ユーザ指定の **show** コマンドの分析要求の例を示します。

```
Router# call-home request output-analysis "show diag" profile TG
```

シスコまたは E メール アドレスへのコマンド出力の送信

call-home send コマンドを使用すると、CLI を実行し、コマンド出力をシスコまたは指定の電子メールアドレスに送信できます。

コマンド出力を送信する場合は、次の注意事項に従ってください。

- CLI コマンドには、すべてのモジュールのコマンドなど、任意の実行コマンドを指定できます。コマンドは二重引用符 (" ") で囲む必要があります。
- 電子メール アドレスを指定した場合、そのアドレスにコマンド出力が送信されます。電子メールアドレスを指定しない場合は、Cisco TAC (attach@cisco.com) に出力が送信されます。電子メールは、件名行にサービス番号を付けて（指定した場合）ロング テキスト形式で送信されます。
- 電子メール アドレスを指定しない場合、または Cisco TAC 電子メール アドレスを指定した場合に限り、サービス番号が必要になります。

CLI コマンドを実行し、コマンド出力を E メールで送信するには、次の手順に従います。

手順の概要

1. **call-home send "command" {email email-addr [tac-service-request request-number] | tac-service-request request-number email email-addr}**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>call-home send "command" {email email-addr [tac-service-request request-number] tac-service-request request-number [email email-addr]}</pre> <p>例:</p> <pre>Router# call-home send "show call-home" email support@example.com</pre>	<p>指定された CLI コマンドを実行し、出力を電子メールで送信します。それぞれの説明は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • email email-addr : コマンド出力の送信必要がある電子メールアドレスを指定します。tac-service-request オプションの入力後に使用される場合、このキーワードはオプションです。 • tac-service-request request-number : 電子メールの件名行に表示される TAC サービス リクエスト番号を指定します。email オプションの入力後に使用される場合、このキーワードはオプションです。

例

次に、CLI コマンドの出力をユーザ指定の E メール アドレスに送信する例を示します。

```
Router# call-home send "show diag" email support@example.com
```

Smart Call Home サービスをサポートするように Call Home を設定する方法

ここでは、シスコ デバイスで Call Home 機能を設定し、HTTPS を使用して Smart Call Home サービスと安全に通信するために必要なその他の支援設定を行うために必要な最小限の手順の概要を説明します。

- 「前提条件」(P.28) (必須)
- 「Call Home の設定とイネーブル化」(P.28) (必須)
- 「CA トラストポイントの宣言および認証」(P.31) (必須)
- 「Smart Call Home の登録の開始」(P.33) (必須)

前提条件

Smart Call Home サービスを設定して使用する前に、次の前提条件を満たしていることを確認してください:

- 設定するデバイスが有効なサービス契約の対象となっていることを確認します。
- Cisco HTTPS サーバと IP 接続できることを確認します。
- 最新のシスコ サーバ セキュリティ証明書を取得します。Cisco IOS XE Release 2.6.0 では、以下が Cisco Systems のサーバ セキュリティ証明書の最新のテキストを表示します。

```
MIIDAjCCAmSCEH3Z/gfPqB63EHln+6eJNMYwDQYJKoZIhvcNAQEFBQAwwGcExCzAJ
BgNVBAYTAlVTMRcwFQYDVQQKEw5WZXJpU2lnbiwgSW5jLjE8MDoGA1UECzMzQ2xh
c3MgMyBqdWJsaWMgUHJpbWFyeSBkZXJ0aWZpY2F0aW9uIEF1dGhvcml0eSAtIEcy
MTowOAYDVQQLEzEoYykgMTk5OCBwZXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3Jp
emVkJHVzZSBvbm5MR8wHQYDVQQLExZWZlbnBiUcnVzdCBOZXR3b3JrMB4X
DTk4MDUxODAwMDAwMFOXTDI4MDgwMTIzNTk1OVowgcExCzAJBgNVBAYTAlVTMRcw
FQYDVQQKEw5WZXJpU2lnbiwgSW5jLjE8MDoGA1UECzMzQ2xhc3MgMyBqdWJsaWMg
UHJpbWFyeSBkZXJ0aWZpY2F0aW9uIEF1dGhvcml0eSAtIEcyMTowOAYDVQQLEzEo
YykgMTk5OCBwZXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3JpemVkJHVzZSBvbm5
MR8wHQYDVQQLExZWZlbnBiUcnVzdCBOZXR3b3JrMIGfMA0GCSqGSIb3DQEB
AQUAA4GNADCBiQKBgQDMXtERXVxp0KvTuWpMmR9ZmDCOFoUgRm1HP9SFIIThbbP4
pO0M8RcPO/mn+SXXwc+EY/J8Y8+iR/LGWzOOZEAEaMGAuWQcRXfH2G711Sk8U0g0
13gfqLptQ5GVj0VXXn7F+8qkBOvqlzdUMG+7AUcyM83cV5tkaWH4mx0ciU9cZwID
AQABMA0GCSqGSIb3DQEBBQUAA4GBAFNzb5cy5gZnBWyAT14Lk0PZ3BwmcYQWpSk
U01UbSuvDV1Ai2TT1+7eVmGSX6bEHRBhNtMsJzZoKQm5EWR0zLVznxxIqbxhAe7i
F6YM40AIOW7n60RzKprxaZLvcRTDoaxxp5EJb+RxBR06WVcmeQD2+A2iMzAo1KpY
oJ2daZH9
```

Call Home の設定とイネーブル化

Cisco Smart Call Home サービスを開始するには、特定の手順を実行して Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに Call Home 機能を設定してイネーブルにする必要があります。

CiscoTAC-1 プロファイルは、電子メールを使用して Smart Call Home サービスのバック エンド サーバと通信するように Call Home 機能で事前定義されています。Cisco HTTPS バック エンド サーバへの URL も定義されています。このプロファイルは、デフォルトで非アクティブです。

両方の転送方法をサポートするように Call Home で設定できる他のプロファイルとは異なり、CiscoTAC-1 プロファイルは一度に 1 つの転送方法のみを使用できます。このため、Cisco Smart Call Home HTTPS サーバでこのプロファイルを使用するには、転送方法を電子メールから HTTP に変更し、このプロファイルをイネーブルにする必要があります。また、連絡先の電子メールアドレスを最小限指定し、Call Home 機能をイネーブルにする必要があります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **profile CiscoTAC-1**

4. **destination transport-method http**
5. **active**
6. **exit**
7. **contact-email-addr** *email-address*
8. **exit**
9. **service call-home**
10. **exit**
11. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例: Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>call-home</code> 例: Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>profile CiscoTAC-1</code> 例: Router(config-call-home)# <code>profile CiscoTAC-1</code>	CiscoTAC-1 宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ4	<code>destination transport-method http</code> 例: Router(cfg-call-home-profile)# <code>destination transport-method http</code>	(HTTPS を使用している場合のみ必須) <code>http</code> のメッセージ転送方法を設定します。
ステップ5	<code>active</code> 例: Router(cfg-call-home-profile)# <code>active</code>	宛先プロファイルをイネーブルにします。
ステップ6	<code>exit</code> 例: Router(cfg-call-home-profile)# <code>exit</code>	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを終了して、Call Home コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ7	<code>contact-email-addr email-address</code> 例: Router(cfg-call-home)# <code>contact-email-addr username@example.com</code>	カスタマーの E メール アドレスを割り当てます。E メール アドレス フォーマットにはスペースなしで最大 200 文字まで入力できます。
ステップ8	<code>exit</code> 例: Router(cfg-call-home)# <code>exit</code>	Call Home コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ9	<code>service call-home</code> 例: Router(config)# <code>service call-home</code>	Call Home 機能をイネーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	<code>exit</code> 例： Router(config)# <code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	<code>copy running-config startup-config</code> 例： Router# <code>copy running-config startup-config</code>	この設定を NVRAM に保存します。

CA トラストポイントの宣言および認証

Smart Call Home サービス用に Cisco HTTPS サーバとの通信を確立するには、シスコのサーバセキュリティ証明書を宣言し、認証する必要があります。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `crypto pki trustpoint name`
3. `enrollment terminal`
4. `exit`
5. `crypto pki authenticate name`
6. プロンプトで、セキュリティ証明書のテキストを貼り付けます。
7. `quit`
8. `yes`
9. `end`
10. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>crypto pki trustpoint name</code> 例： Router(config)# <code>crypto pki trustpoint cisco</code>	ルータの CA トラストポイントを宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>enrollment terminal</code> 例： Router(ca-trustpoint)# <code>enrollment terminal</code>	証明書登録に、手動でのカットアンドペースト方式を指定します。
ステップ4	<code>exit</code> 例： Router(ca-trustpoint)# <code>exit</code>	CA トラストポイント コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ5	<code>crypto pki authenticate name</code> 例： Router(config)# <code>crypto pki authenticate cisco</code>	名前付き CA を認証します。 (注) CA の名前は、 <code>crypto pki trustpoint</code> コマンドで指定された <i>name</i> と一致する必要があります。
ステップ6	プロンプトで、セキュリティ証明書のテキストを貼り付けます。 例： Enter the base 64 encoded CA certificate. End with a blank line or the word "quit" on a line by itself <証明書のテキストを貼りつけてください>	セキュリティ証明書のテキストを指定します。
ステップ7	<code>quit</code> 例： <code>quit</code>	セキュリティ証明書のテキストの終わりを指定します。
ステップ8	<code>yes</code> 例： % Do you accept this certificate? [yes/no]: <code>yes</code>	セキュリティ証明書の入力の受け入れを確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ9	<pre>end</pre> <p>例:</p> <pre>Router# end</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ10	<pre>copy running-config startup-config</pre> <p>例:</p> <pre>Router# copy running-config startup-config</pre>	この設定を NVRAM に保存します。

例

次に、シスコのサーバセキュリティ証明書の宣言と認証に使用される設定の例を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# crypto pki trustpoint cisco
Router(ca-trustpoint)# enrollment terminal
Router(ca-trustpoint)# exit
Router(config)# crypto pki authenticate cisco

Enter the base 64 encoded CA certificate.
End with a blank line or the word "quit" on a line by itself

MIIDAJCCAmSCEH3Z/gfPqB63Ehln+6eJNMYwDQYJKoZIhvcNAQEFBQAwgExCzAJ
BgNVBAYTA1VTMRcwFQYDVQQKEw5WZXJpU2lnbiwgSW5jLjE8MDoGA1UECzMzQ2xhc
c3MgMyBQdWJsaWMgUHJpbWVyeSBkZXJ0aWZpY2F0aW9uIEF1dGhvcml0eSAtIEcy
MTowOAYDVQQLEzEoYykgMTk5OCBWXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXR3b3Jp
emVkJHVzZSBvbm5MR8wHQYDVQQLExZWZXJpU2lnbiBUcnVzdCB0ZXR3b3JrMB4X
DTk4MDUxODAwMDAwMFoXDTE4MDgwMTIzNTk1OVowgcExCzAJBgNVBAYTA1VTMRcw
FQYDVQQKEw5WZXJpU2lnbiwgSW5jLjE8MDoGA1UECzMzQ2xhc3MgMyBQdWJsaWMg
UHJpbWVyeSBkZXJ0aWZpY2F0aW9uIEF1dGhvcml0eSAtIEcyMTowOAYDVQQLEzEo
YykgMTk5OCBWXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXR3b3JpemVkJHVzZSBvbm5M
R8wHQYDVQQLExZWZXJpU2lnbiBUcnVzdCB0ZXR3b3JrMIGfMA0GCSqGSIb3DQEB
AQUAA4GNADCBiQKBgQDMxtERXVxp0KvTuWpMmR9ZmDCOFoUgRm1HP9SFIIThbbP4
pO0M8RcPO/mn+SXXwc+EY/J8Y8+iR/LGWzOOZEAEaMGAWQcRXfH2G711Sk8U0g0
13gfqLptQ5GVj0VXXn7F+8qkBOvqlzdUMG+7AUcyM83cV5tkaWH4mx0ciU9cZwID
AQABMA0GCSqGSIb3DQEBBQUAA4GBAFFNzb5cy5gZnBWYAt14Lk0PZ3BwmcYQWpSk
U01UbSuvDV1A12TT1+7eVmGSX6bEHRBhNtMsJzZoKQm5EWR0zLVznxxIqbxhAe7i
F6YM40AI0w7n60RzKprxaZLvcRtDOaxxp5EJb+RxBr06WVcmeQD2+A2iMzAo1KpY
oJ2daZH9
quit
Certificate has the following attributes:
    Fingerprint MD5: A2339B4C 747873D4 6CE7C1F3 8DCB5CE9
    Fingerprint SHA1: 85371CA6 E550143D CE280347 1BDE3A09 E8F8770F

% Do you accept this certificate? [yes/no]: yes
Trustpoint CA certificate accepted.
% Certificate successfully imported

Router(config)# end
Router# copy running-config startup-config
```

Smart Call Home の登録の開始

Smart Call Home の登録プロセスを開始するには、CiscoTAC-1 プロファイルに [Inventory] アラートグループ メッセージを手動で送信します。

手順の概要

1. call-home send alert-group inventory profile CiscoTAC-1

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<pre>call-home send alert-group inventory profile CiscoTAC-1</pre> <p>例:</p> <pre>Router# call-home send alert-group inventory profile CiscoTAC-1</pre>	[Inventory] アラート グループ メッセージを CiscoTAC-1 宛先プロファイルに手動で送信します。

次の作業

電子メールを Cisco Systems から受信し、指示に従って Smart Call Home Web アプリケーションのデバイス登録を完了します。

- 次の URL から、Smart Call Home Web アプリケーションを起動します。
<https://tools.cisco.com/sch/>
- 法的な契約書を受け入れます。
- 登録が保留中であった Call Home デバイスのデバイス登録を確認します。

Smart Call Home Web アプリケーションの使用の詳細については、『*Smart Call Home User Guide*』を参照してください。このユーザ ガイドには、デバイスから直接、または転送ゲートウェイ (TG) 集約ポイントを介して Smart Call Home メッセージを送信するための設定例も含まれています。複数のデバイスをサポートする必要がある場合や、セキュリティ要件によってデバイスがインターネットに直接接続されないことが必須である場合は、TG 集約ポイントを使用できます。

Call Home 設定情報の表示

さまざまな `show call-home` コマンドを使用して、Call Home の設定情報を表示できます。

設定済みの Call Home 情報を表示するには、次のコマンドの 1 つまたは複数を使用します。

手順の概要

1. `show call-home`
2. `show call-home detail`
3. `show call-home alert-group`
4. `show call-home mail-server status`
5. `show call-home profile {all | name}`
6. `show call-home statistics`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>show call-home</code> 例： Router# <code>show call-home</code>	Call Home 設定の概要を表示します。
ステップ2	<code>show call-home detail</code> 例： Router# <code>show call-home detail</code>	Call Home 設定の詳細を表示します。
ステップ3	<code>show call-home alert-group</code> 例： Router# <code>show call-home alert-group</code>	使用可能なアラート グループとそれらのステータスを表示します。
ステップ4	<code>show call-home mail-server status</code> 例： Router# <code>show call-home mail-server status</code>	設定済みの E メール サーバの可用性をチェックして表示します。
ステップ5	<code>show call-home profile {all name}</code> 例： Router# <code>show call-home profile all</code>	指定された宛先プロファイルの設定を表示します。 all キーワードを使用してすべての宛先プロファイルの設定を表示します。
ステップ6	<code>show call-home statistics</code> 例： Router# <code>show call-home statistics</code>	Call Home イベントの統計情報を表示します。

例

次に、`show call-home` コマンドの異なるオプションを使用した場合の出力例を示します。

例：設定済み Call Home 情報の要約

```
Router# show call-home
Current call home settings:
  call home feature : disable
  call home message's from address: username@example.com
  call home message's reply-to address: username@example.com

vrf for call-home messages: Mgmt-intf

contact person's email address: username@example.com

contact person's phone number: +14085551234
street address: 1234 Any Street Any city Any state 12345
customer ID: customer@example.com
contract ID: 123456789
site ID: example.com
Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1
Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2
Rate-limit: 20 message(s) per minute
```

```

Available alert groups:
  Keyword          State  Description
  -----
  configuration    Enable configuration info
  diagnostic        Enable diagnostic info
  environment       Enable environmental info
  inventory         Enable inventory info
  syslog           Enable syslog info

Profiles:
  Profile Name: campus-noc
  Profile Name: CiscoTAC-1

```

例：設定済みの Call Home 情報の詳細

```

Router# show call-home detail
Current call home settings:
  call home feature : disable
  call home message's from address: username@example.com
  call home message's reply-to address: username@example.com

  vrf for call-home messages: Mgmt-intf

  contact person's email address: username@example.com

  contact person's phone number: +14085551234
  street address: 1234 Any Street Any city Any state 12345
  customer ID: customer@example.com
  contract ID: 123456789
  site ID: example.com
  Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1
  Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2
  Rate-limit: 20 message(s) per minute

Available alert groups:
  Keyword          State  Description
  -----
  configuration    Enable configuration info
  diagnostic        Enable diagnostic info
  environment       Enable environmental info
  inventory         Enable inventory info
  syslog           Enable syslog info

Profiles:

Profile Name: campus-noc
  Profile status: ACTIVE
  Preferred Message Format: long-text
  Message Size Limit: 3145728 Bytes
  Transport Method: email
  Email address(es): username@example.com
  HTTP address(es): Not yet set up

  Alert-group      Severity
  -----
  inventory        normal

  Syslog-Pattern   Severity
  -----
  N/A              N/A

Profile Name: CiscoTAC-1

```

```

Profile status: INACTIVE
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): callhome@cisco.com
HTTP address(es): https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService

Periodic configuration info message is scheduled every 23 day of the month at 10:28

Periodic inventory info message is scheduled every 23 day of the month at 10:13

```

```

Alert-group          Severity
-----
diagnostic           minor
environment           minor
inventory            normal

Syslog-Pattern      Severity
-----
.*                   major

```

例：使用可能な Call Home アラート グループ

```
Router# show call-home alert-group
```

Available alert groups:

```

Keyword              State   Description
-----
configuration        Enable  configuration info
diagnostic            Enable  diagnostic info
environment           Enable  environmental info
inventory             Enable  inventory info
syslog                Enable  syslog info

```

例：E メール サーバのステータス情報

```
Router# show call-home mail-server status
```

Please wait. Checking for mail server status ...

Translating "smtp.example.com"

```

Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1 [Not Available]
Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2 [Not Available]

```

例：すべての宛先プロファイルの情報（定義済みおよびユーザ定義）

```
Router# show call-home profile all
```

```

Profile Name: campus-noc
Profile status: ACTIVE
Preferred Message Format: long-text
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): username@example.com
HTTP address(es): Not yet set up

```

```

Alert-group          Severity
-----
inventory            normal

Syslog-Pattern      Severity
-----
N/A                 N/A

```

```
Profile Name: CiscoTAC-1
```

```

Profile status: INACTIVE
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): callhome@cisco.com
HTTP address(es): https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService

Periodic configuration info message is scheduled every 23 day of the month at 12:13

Periodic inventory info message is scheduled every 23 day of the month at 11:58

Alert-group          Severity
-----
diagnostic           minor
environment          minor
inventory            normal

Syslog-Pattern      Severity
-----
.*                   major

Router#

```

例：ユーザ定義の宛先プロファイルに関する情報

```

Router# show call-home profile campus-noc

Profile Name: campus-noc
Profile status: ACTIVE
Preferred Message Format: long-text
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): username@example.com
HTTP address(es): Not yet set up

Alert-group          Severity
-----
inventory            normal

Syslog-Pattern      Severity
-----
N/A                 N/A

```

例：Call Home の統計情報

```

Router# show call-home statistics

```

Message Types	Total	Email	HTTP
Total Success	6	6	0
Config	4	4	0
Diagnostic	0	0	0
Environment	0	0	0
Inventory	2	2	0
SysLog	0	0	0
Test	0	0	0
Request	0	0	0
Send-CLI	0	0	0
Total In-Queue	0	0	0
Config	0	0	0
Diagnostic	0	0	0
Environment	0	0	0
Inventory	0	0	0

```

SysLog      0          0          0
Test        0          0          0
Request     0          0          0
Send-CLI    0          0          0

Total Failed 0          0          0
Config      0          0          0
Diagnostic  0          0          0
Environment 0          0          0
Inventory   0          0          0
SysLog      0          0          0
Test        0          0          0
Request     0          0          0
Send-CLI    0          0          0

Total Ratelimit
-dropped    0          0          0
Config      0          0          0
Diagnostic  0          0          0
Environment 0          0          0
Inventory   0          0          0
SysLog      0          0          0
Test        0          0          0
Request     0          0          0
Send-CLI    0          0          0

```

Last call-home message sent time: 2010-01-11 18:32:32 GMT+00:00

デフォルト設定

表 2 に Call Home のデフォルト設定の一覧を示します。

表 2 Call Home のデフォルト設定

パラメータ	デフォルト
Call Home 機能のステータス	ディセーブル済み
ユーザ定義プロファイルのステータス	アクティブ
定義済みのシスコ TAC プロファイルのステータス	非アクティブ
転送方法	E-mail
メッセージのフォーマットタイプ	XML
ロングテキスト、ショートテキスト、または XML 形式で送信されるメッセージの宛先メッセージのサイズ	3,145,728
アラートグループのステータス	イネーブル
Call Home メッセージの重大度しきい値	0 (デバッグ)
1 分間に送信するメッセージのレート制限	20

アラート グループの起動イベントとコマンド

Call Home 起動イベントはアラート グループにグループ化され、各アラート グループにはイベントの発生時に実行するよう CLI コマンドが割り当てられます。CLI コマンド出力は転送されるメッセージに含まれます。表 3 に、各アラート グループに含まれる起動イベントを示します。これには、各イベントの重大度と実行されるアラート グループの CLI コマンドも含まれます。

表 3 Call Home アラート グループ、イベント、および動作

アラート グループ	Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明と実行される CLI コマンド
Configuration	—	—	—	ユーザが作成した設定要求（TAC に送信）。 実行される CLI コマンド show platform show inventory show running-config all show startup-config show version
Diagnostic	—	—	—	実行される CLI コマンド show platform show diagnostic result slot x detail show version show inventory show buffers show logging show diagnostic result slot all show diagnostic events slot all
—	エラーカウンタのモニタリングテストの失敗数がしきい値を超過	%ASR1000_RP_DIAG_TEST-4-ERR_CNTR_HM_TEST_FAIL	4	ERROR_COUNTER_WARNING : スロット番号のエラーカウンタがしきい値を超過しています。システムの動作は継続します。
—	エラーカウンタのモニタリングテストの失敗数がしきい値を超過	%ASR1000_RP_DIAG_TEST-4-ERR_CNTR_HM_TEST_DATA	4	ERROR_COUNTER_DATA : ID : 番号、IN : 番号、PO : 番号、RE : 番号、RM : 番号、DV : 番号、EG : 番号、CF : 番号、TF : 番号
Environmental	—	—	—	電源、ファン、温度アラームのような環境感知要素に関連するイベント（TAC に送信）。 実行される CLI コマンド show platform show environment show inventory show logging

表 3 Call Home アラートグループ、イベント、および動作 (続き)

アラートグループ	Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明と実行される CLI コマンド
—	—	%ASR1000_PEM-3-FANFAIL	3	スロット (スロット/サブスロット番号) のファンに障害が発生しています。
—	—	%ASR1000_PEM-6-FANOK	6	スロット (スロット/サブスロット番号) のファンは適切に機能しています。
—	—	%ASR1000_PEM-3-PEMFAIL	3	スロット (スロット番号) の PEM はスイッチがオフになっているか、障害が発生しています。
—	—	%ASR1000_PEM-6-PEMOK	6	スロット (スロット番号) の PEM は適切に機能しています。
—	—	%ENVIRONMENTAL-1-ALERT	1	この環境アラートは、fp/cc/rp のいずれかのセンサーがしきい値を超過したために発生しています。
—	ENVM	%ENVIRONMENTAL-1-SENSORFAIL	1	この環境アラートは、fp/cc/rp のいずれかのセンサーが失敗したために発生しています。
—	—	%ENVIRONMENTAL-1-SENSOROK	1	この環境アラートは、fp/cc/rp のいずれかのセンサーが復旧したために発生しています。
Inventory	—	—	—	Inventory ステータスは、ユニットがコールドブートされた場合や、FRU が挿入または取り外された場合に指定される。これは、重大ではないイベントと見なされ、情報はステータスと資格設定に使用される (TAC に送信)。 実行される CLI コマンド show platform show inventory oid show version show diag all eeprom detail
—	SPA HARDWARE_ REMOVAL	%ASR1000_OIR-6-REMSPA	6	SPA がサブスロット (スロット/サブスロット番号) から削除され、インターフェイスがディセーブルになっています。
—	SPA HARDWARE_I NSERTION	%ASR1000_OIR-6-INSSPA	6	SPA が (スロット/サブスロット番号) に挿入されています。
—	CC/FP/RP HARDWARE_ REMOVAL	%ASR1000_OIR-6-REMCARD	6	カード (cc/rp/fp) がスロット (スロット番号) から削除されています。

表 3 Call Home アラート グループ、イベント、および動作 (続き)

アラート グループ	Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明と実行される CLI コマンド
—	CC/FP/RP HARDWARE_I NSERTION	%ASR1000_OIR-6-INSCARD	6	カード (cc/rp/fp) がスロット (ス ロット番号) に挿入されています。
—	PEM /FM HARDWARE_ REMOVAL	%ASR1000_PEM-6-REMPEREM_FM	6	PEM/FM スロット (スロット番号) が削除されています。
—	PEM /FM HARDWARE_I NSERTION	%ASR1000_PEM-6-INSPEREM_FM	6	PEM/FM スロット (スロット番号) が挿入されています。
Syslog	—	—	—	syslog にログ記録されるイベント 実行される CLI コマンド show inventory show logging
—	SYSLOG	LOG_EMERG	0	システムが使用不可能な状態。
—	SYSLOG	LOG_ALERT	1	即時対処が必要。
—	SYSLOG	LOG_CRIT	2	深刻な状況です。
—	SYSLOG	LOG_ERR	3	エラー状態です。
—	SYSLOG	LOG_WARNING	4	警告状態。
—	SYSLOG	LOG_NOTICE	5	正常だが重大な状態。
—	SYSLOG	LOG_INFO	6	情報。
—	SYSLOG	LOG_DEBUG	7	デバッグレベル メッセージ。
Test	—	TEST	—	ユーザが作成したテスト メッセー ジ (TAC に送信)。 実行される CLI コマンド show platform show inventory show version

メッセージの内容

次の表に、アラート グループ メッセージの内容の形式を示します。

- 表 4 では、ショート テキスト メッセージの内容フィールドについて説明しています。
- 表 5 では、ロング テキスト メッセージと XML メッセージすべてに共通の内容フィールドについて説明しています。特定のアラート グループ メッセージに固有のフィールドは、共通フィールドの間に挿入されます。挿入ポイントは表に示しています。
- 表 6 では、リアクティブ メッセージ (TAC を必要とするシステム障害) とプロアクティブ メッセージ (システム パフォーマンスが低下する可能性のある問題) に挿入される内容フィールドについて説明しています。
- 表 7 では、インベントリ メッセージに挿入される内容フィールドについて説明しています。

このセクションには、サンプル メッセージを記載した次のサブセクションも含まれています。

- 「[ロング テキスト形式での Syslog アラート通知の例](#)」 (P.46)
- 「[XML 形式での Syslog アラート通知の例](#)」 (P.50)

表 4 ショート テキスト メッセージの形式

データ項目	説明
デバイス ID	設定されたデバイス名
日時スタンプ	起動イベントのタイム スタンプ
エラー判別メッセージ	起動イベントの簡単な説明 (英語)
アラームの緊急度	システム メッセージに適用されるようなエラー レベル

表 5 ロング テキスト メッセージと XML メッセージすべてに共通のフィールド

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	MML タグ (XML のみ)
タイム スタンプ	ISO 時刻通知でのイベントの日付/タイム スタンプ YYYY-MM-DD HH:MM:SS GMT+HH:MM.	CallHome/EventTime
メッセージ名	メッセージの名前。具体的なイベント名のリストは「 アラート グループの起動イベントとコマンド 」 (P.40) に示されています。	ショート テキスト メッセージの場合のみ
メッセージ タイプ	「Call Home」となります。	CallHome/Event/Type
メッセージ サブタイプ	特定のメッセージ タイプ : full、delta、test	CallHome/Event/SubType
メッセージ グループ	具体的には「リアクティブ」。デフォルトは「リアクティブ」のため、任意。	なし。ロング テキスト メッセージ専用。
重大度	メッセージの重大度 (表 1 を参照)。	Body/Block/Severity
送信元 ID	ワークフロー エンジンから経路指定する製品タイプ。一般に製品ファミリ名です。	ロング テキスト メッセージ専用
デバイス ID	メッセージを生成するエンド デバイスの Unique Device Identifier (UDI)。メッセージがファブリック スイッチに固有でない場合、このフィールドは空白。形式は、 <i>type@Sid@serial</i> 。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。 • <i>@</i> は区切り文字です。 • <i>Sid</i> は、シャーシのシリアル番号としてシリアル ID を特定する C。 • <i>serial</i> は、Sid フィールドによって識別される番号です。 例 : ASR1006@C@FOX105101DH	CallHome/CustomerData/ ContractData/DeviceId
カスタマー ID	サポート サービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。	CallHome/CustomerData/ ContractData/CustomerId
契約 ID	サポート サービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。	CallHome/CustomerData/ ContractData/ContractId

表 5 ロング テキスト メッセージと XML メッセージすべてに共通のフィールド (続き)

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	MML タグ (XML のみ)
サイト ID	Cisco Systems が提供するサイト ID または代替サポート サービスにとって意味があるその他のデータに使用される オプションのユーザ設定可能フィールド	CallHome/CustomerData/ ContractData/SiteId
サーバ ID	メッセージがファブリック スイッチから生成されている場合、これはスイッチの固有のデバイス ID (UDI)。 形式は、 <i>type@Sid@serial</i> 。 <ul style="list-style-type: none"> <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。 <i>@</i> は区切り文字です。 <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャーシ シリアル番号として特定します。 <i>serial</i> は、Sid フィールドによって識別される番号です。 例: ASR1006@C@FOX105101DH	ロング テキスト メッセージの場合のみ
メッセージの説明	エラーを説明する短い文章。	CallHome/MessageDescription
デバイス名	イベントが発生するノード。これは、デバイスのホスト名です。	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/NameName
担当者名	イベント発生中のノードに関する問題の問い合わせ先の担当者名。	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/Contact
連絡先 E メール	このユニットの連絡先である人物の電子メール アドレス。	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/ContactEmail
連絡先電話番号	このユニットの連絡先である人物の電話番号。	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/ContactPhoneNumber
住所	このユニットに関連した RMA 部品の送付先住所を格納しているオプションのフィールド。	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/StreetAddress
モデル名	ルータのモデル名。製品ファミリ名の一部である固有モデルです。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ モデル
シリアル番号	ユニットのシャーシのシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ SerialNumber
シャーシの部品番号	シャーシの最上アセンブリ番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "PartNumber"
システム オブジェクト ID	システムを一意に識別するシステム オブジェクト ID。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "sysObjectID"
システム記述	管理対象デバイスのシステム説明。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "sysDescr"
特定のアラート グループ メッセージの固有のフィールドは、ここに挿入されます。		
このアラート グループに対して複数の CLI コマンドが実行されると、次のフィールドが繰り返される場合があります。		
コマンド出力名	発行される CLI コマンドの正確な名前。	/aml/Attachments/Attachment/Name

表 5 ロング テキスト メッセージと XML メッセージすべてに共通のフィールド (続き)

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	MML タグ (XML のみ)
添付タイプ	アタッチメントのタイプ。通常は「インライン」です。	/aml/Attachments/Attachment@type
MIME タイプ	通常は「テキスト」または「プレーン」あるいは符号化タイプです。	/aml/Attachments/Attachment/ Data@encoding
コマンド出力テキスト	自動的に実行されたコマンドの出力 (表 3 を参照)。	/mml/attachments/attachment/atdata

表 6 対処的または予防的イベント メッセージに挿入されるフィールド

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	MML タグ (XML のみ)
シャーシのハードウェアバージョン	シャーシのハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ HardwareVersion
スーパーバイザ モジュール ソフトウェアバージョン	最上レベルのソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "SoftwareVersion"
影響のある FRU の名前	イベント メッセージを生成する、影響のある FRU の名前。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/Model
影響のある FRU のシリアル番号	影響のある FRU のシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SerialNumber
影響のある FRU の製品番号	影響のある FRU の製品番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/PartNumber
FRU スロット	イベント メッセージを生成している FRU のスロット番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/LocationWithinContainer
FRU ハードウェアバージョン	影響のある FRU のハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/HardwareVersion
FRU ソフトウェアバージョン	影響のある FRU 上で動作しているソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SoftwareIdentity/ VersionString

表 7 インベントリ イベント メッセージの挿入フィールド

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	MML タグ (XML のみ)
シャーシのハードウェアバージョン	シャーシのハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ HardwareVersion
スーパーバイザ モジュール ソフトウェアバージョン	最上レベルのソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "SoftwareVersion"
FRU 名	イベント メッセージを生成する、影響のある FRU の名前。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/Model

表 7 インベントリ イベント メッセージの挿入フィールド (続き)

データ項目 (プレーン テキスト と XML)	説明 (プレーン テキストと XML)	MML タグ (XML のみ)
FRU s/n	FRU のシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SerialNumber
FRU 製品番号	FRU の製品番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/PartNumber
FRU スロット	FRU のスロット番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/LocationWithinContainer
FRU ハードウェア バージョン	FRU のハードウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ CiscoCard/HardwareVersion
FRU ソフトウェア バージョン	FRU 上で動作しているソフトウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SoftwareIdentity/ VersionString

ログ テキスト形式での Syslog アラート通知の例

次に、long-text 形式での Syslog アラート通知の例を示します。

```

TimeStamp : 2009-12-03 12:26 GMT+05:00
Message Name : syslog
Message Type : Call Home
Message Group : reactive
Severity Level : 2
Source ID : ASR1000
Device ID : ASR1006@C@FOX105101DH
Customer ID : username@example.com
Contract ID : 123456789
Site ID : example.com
Server ID : ASR1006@C@FOX105101DH
Event Description : *Dec 3 12:26:02.319 IST: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all
interfaces by console
System Name : mcp-6ru-3
Contact Email : username@example.com
Contact Phone : +14085551234
Street Address : 1234 Any Street Any City Any State 12345
Affected Chassis : ASR1006
Affected Chassis Serial Number : FOX105101DH
Affected Chassis Part No : 68-2584-05
Affected Chassis Hardware Version : 2.1
Command Output Name : show logging
Attachment Type : command output
MIME Type : text/plain
Command Output Text :
Syslog logging: enabled (1 messages dropped, 29 messages rate-limited, 0 flushes, 0
overruns, xml disabled, filtering disabled)

No Active Message Discriminator.

No Inactive Message Discriminator.

Console logging: disabled

```

```
Monitor logging: level debugging, 0 messages logged, xml disabled,
                  filtering disabled
Buffer logging:  level debugging, 112 messages logged, xml disabled,
                  filtering disabled
Exception Logging: size (4096 bytes)
Count and timestamp logging messages: disabled
Persistent logging: disabled
```

No active filter modules.

```
Trap logging: level informational, 104 message lines logged
```

Log Buffer (1000000 bytes):

```
*Dec 3 07:16:55.020: ASR1000-RP HA: RF status CID 1340, seq 93, status
RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE, op 0, state DISABLED, peer DISABLED
*Dec 3 07:17:00.379: %ASR1000_MGMTVRF-6-CREATE_SUCCESS_INFO: Management vrf Mgmt-intf
created with ID 4085, ipv4 table-id 0xFF5, ipv6 table-id 0x1E000001
*Dec 3 07:17:00.398: %NETCLK-5-NETCLK_MODE_CHANGE: Network clock source not available.
The network clock has changed to freerun

*Dec 3 07:17:00.544: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface LI-Null0, changed
state to up
*Dec 3 07:17:00.545: %LINK-3-UPDOWN: Interface EOBC0, changed state to up
*Dec 3 07:17:00.545: %LINK-3-UPDOWN: Interface Lsmpi0, changed state to up
*Dec 3 07:17:00.546: %LINK-3-UPDOWN: Interface LIIN0, changed state to up
*Dec 3 07:17:00.546: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0, changed state to down
*Dec 3 07:17:01.557: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface EOBC0, changed state
to up
*Dec 3 07:17:01.557: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Lsmpi0, changed
state to up
*Dec 3 07:17:01.558: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface LIIN0, changed state
to up
*Dec 3 07:17:01.558: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0,
changed state to down
*Dec 3 07:17:01.818: %DYNCMD-7-CMDSET_LOADED: The Dynamic Command set has been loaded
from the Shell Manager
*Dec 3 07:16:30.926: %CMRP-5-PRERELEASE_HARDWARE: R0/0: cmand: 2 is pre-release hardware
*Dec 3 07:16:24.147: %HW_IDPROM_ENVMON-3-HW_IDPROM_CHECKSUM_INVALID: F1: cman_fp: The
idprom contains an invalid checksum in a sensor entry. Expected: 63, calculated: fe
*Dec 3 07:16:24.176: %CMFP-3-IDPROM_SENSOR: F1: cman_fp: One or more sensor fields from
the idprom failed to parse properly because Success.
*Dec 3 07:16:27.669: %CPPHA-7-START: F1: cpp_ha: CPP 0 preparing image
/tmp/sw/fp/1/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:27.839: %CPPHA-7-START: F1: cpp_ha: CPP 0 startup init image
/tmp/sw/fp/1/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:28.659: %CPPHA-7-START: F0: cpp_ha: CPP 0 preparing image
/tmp/sw/fp/0/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:28.799: %CPPHA-7-START: F0: cpp_ha: CPP 0 startup init image
/tmp/sw/fp/0/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:32.557: %CPPHA-7-START: F1: cpp_ha: CPP 0 running init image
/tmp/sw/fp/1/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:32.812: %CPPHA-7-READY: F1: cpp_ha: CPP 0 loading and initialization
complete
*Dec 3 07:16:33.532: %CPPHA-7-START: F0: cpp_ha: CPP 0 running init image
/tmp/sw/fp/0/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:33.786: %CPPHA-7-READY: F0: cpp_ha: CPP 0 loading and initialization
complete
*Dec 3 07:16:34.158: %IOSXE-6-PLATFORM: F1: cpp_cp: Process
CPP_PFILTER_EA_EVENT_API_CALL_REGISTER
*Dec 3 07:16:35.134: %IOSXE-6-PLATFORM: F0: cpp_cp: Process
CPP_PFILTER_EA_EVENT_API_CALL_REGISTER
*Dec 3 07:16:38.965: %CMRP-6-FP_HA_STATUS: R0/0: cmand: F0 redundancy state is Active
with ready Standby
```

```

*Dec 3 07:17:01.926: %DYNCMD-7-PKGINT_INSTALLED: The command package 'platform_trace' has
been successfully installed
*Dec 3 12:17:05.385 IST: %SYS-6-CLOCKUPDATE: System clock has been updated from 07:17:05
UTC Thu Dec 3 2009 to 12:17:05 IST Thu Dec 3 2009, configured from console by console.
*Dec 3 12:17:05.506 IST: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from memory by console
*Dec 3 12:17:05.508 IST: %ASR1000_OIR-6-REMSPA: SPA removed from subslot 0/2, interfaces
disabled
*Dec 3 12:17:05.508 IST: %ASR1000_OIR-6-REMSPA: SPA removed from subslot 1/3, interfaces
disabled
*Dec 3 12:17:05.508 IST: %ASR1000_OIR-6-REMSPA: SPA removed from subslot 2/3, interfaces
disabled
*Dec 3 12:17:05.514 IST: %SPA_OIR-6-OFFLINECARD: SPA (SPA-8XOC3-POS) offline in subslot
0/2
*Dec 3 12:17:05.515 IST: %SPA_OIR-6-OFFLINECARD: SPA (SPA-4XOC3-POS) offline in subslot
1/3
*Dec 3 12:17:05.516 IST: %SPA_OIR-6-OFFLINECARD: SPA (SPA-1XOC12-POS) offline in subslot
2/3
*Dec 3 12:17:05.520 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (rp) inserted in slot R1
*Dec 3 12:17:05.521 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (fp) inserted in slot F0
*Dec 3 12:17:05.521 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (fp) online in slot F0
*Dec 3 12:17:05.574 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (fp) inserted in slot F1
*Dec 3 12:17:05.574 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (fp) online in slot F1
*Dec 3 12:17:05.575 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (cc) inserted in slot 0
*Dec 3 12:17:05.575 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (cc) online in slot 0
*Dec 3 12:17:05.576 IST: %ASR1000_OIR-6-INSSPA: SPA inserted in subslot 0/2
*Dec 3 12:17:05.580 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (cc) inserted in slot 1
*Dec 3 12:17:05.581 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (cc) online in slot 1
*Dec 3 12:17:05.582 IST: %ASR1000_OIR-6-INSSPA: SPA inserted in subslot 1/3
*Dec 3 12:17:05.582 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (cc) inserted in slot 2
*Dec 3 12:17:05.582 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (cc) online in slot 2
*Dec 3 12:17:05.583 IST: %ASR1000_OIR-6-INSSPA: SPA inserted in subslot 2/3
*Dec 3 12:17:05.844 IST: %SYS-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, IOS-XE Software (PPC_LINUX_IOSD-ADVENTERPRISEK9-M), Experimental
Version 12.2(20091118:075558) [v122_33_xnf_asr_rls6_throttle-mcp_dev_rls6 102]
Copyright (c) 1986-2009 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Wed 18-Nov-09 01:14 by
*Dec 3 12:17:06.005 IST: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
*Dec 3 12:17:06.005 IST: %CRYPTO-6-GDOI_ON_OFF: GDOI is OFF
*Dec 3 12:16:30.097 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP2/3: Interface EOBC2/1, changed state to up
*Dec 3 12:16:27.595 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIPO/2: Interface EOBC0/1, changed state to up
*Dec 3 12:16:26.420 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIPI/3: Interface EOBC1/1, changed state to up
*Dec 3 12:17:07.435 IST: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
*Dec 3 12:17:07.435 IST: %CRYPTO-6-GDOI_ON_OFF: GDOI is OFF
*Dec 3 12:17:07.476 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0, changed state to up
*Dec 3 12:17:08.137 IST: %SPA_OIR-6-ONLINECARD: SPA (SPA-4XOC3-POS) online in subslot 1/3
*Dec 3 12:17:08.139 IST: %SPA_OIR-6-ONLINECARD: SPA (SPA-8XOC3-POS) online in subslot 0/2
*Dec 3 12:17:08.346 IST: %SPA_OIR-6-ONLINECARD: SPA (SPA-1XOC12-POS) online in subslot
2/3
*Dec 3 12:17:08.491 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface
GigabitEthernet0, changed state to up
*Dec 3 12:17:11.047 IST: %SYS-6-BOOTTIME: Time taken to reboot after reload = 12319
seconds
*Dec 3 12:17:11.562 IST: %IOSXE-5-PLATFORM: R0/0: xinetd[879]: xinetd Version 2.3.14
started with no options compiled in.
*Dec 3 12:17:11.562 IST: %IOSXE-5-PLATFORM: R0/0: xinetd[879]: Started working: 1
available service
*Dec 3 12:17:11.584 IST: %IOSXE-5-PLATFORM: R0/0: xinetd[887]: xinetd Version 2.3.14
started with no options compiled in.
*Dec 3 12:17:11.584 IST: %IOSXE-5-PLATFORM: R0/0: xinetd[887]: Started working: 2
available services
*Dec 3 12:17:13.753 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/0, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/1, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/2, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/3, changed state to down

```



```

*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/4, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/5, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.755 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/6, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.755 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/7, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.755 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS2/3/0, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.755 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS1/3/0, changed state to down
*Dec 3 12:17:14.753 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/0,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.753 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/1,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.753 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/2,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.754 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/3,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.754 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/4,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.754 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/5,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.754 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/6,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.755 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/7,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.848 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/1: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.848 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/2: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.849 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/3: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.849 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/4: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.849 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/5: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.850 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/6: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.850 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/7: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.850 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS2/3/0,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.851 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS1/3/0,
changed state to down
*Dec 3 12:17:16.069 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:15.734 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP0/2: Interface POS0/2/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:16.868 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS1/3/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:16.905 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS2/3/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:16.538 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP0/2: Interface POS0/2/7, changed state to
down
*Dec 3 12:17:17.070 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/0,
changed state to up
*Dec 3 12:17:16.488 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP1/3: Interface POS1/3/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:17.868 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS1/3/0,
changed state to up
*Dec 3 12:17:16.199 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP2/3: Interface POS2/3/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:17.905 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS2/3/0,
changed state to up
*Dec 3 12:22:01.574 IST: %IP-4-DUPADDR: Duplicate address 172.27.55.233 on
GigabitEthernet0, sourced by 001a.3044.1ec0
*Dec 3 12:23:47.613 IST: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Dec 3 12:24:37.134 IST: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all interfaces by console
*Dec 3 12:25:34.356 IST: %DIAG-3-TEST_FAIL: slot R0: TestErrorCounterMonitor{ID=1} has
failed. Error code = 0x1 (DIAG_FAILURE)
*Dec 3 12:25:39.459 IST: %DIAG-3-TEST_FAIL: slot R0: TestErrorCounterMonitor{ID=1} has
failed. Error code = 0x1 (DIAG_FAILURE)
*Dec 3 12:25:54.405 IST: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
mcp-6ru-3#
Command Output Name : show inventory
Attachment Type : command output
MIME Type : text/plain
Command Output Text : NAME: "Chassis", DESCR: "Cisco ASR1006 Chassis"
PID: ASR1006 , VID: V00, SN: FOX105101DH

NAME: "module 0", DESCR: "Cisco ASR1000 SPA Interface Processor 10"

```

```

PID: MCP-CC          , VID: V00, SN: JAB1104064W

NAME: "SPA subslot 0/2", DESCR: "8-port OC3/STM1 POS Shared Port Adapter"
PID: SPA-8XOC3-POS   , VID: V01, SN: JAE1236TSW0

NAME: "subslot 0/2 transceiver 0", DESCR: "OC3 SR-1/STM1 MM"
PID: SFP-OC3-MM     , VID: A   , SN: OCP12231628

NAME: "module 1", DESCR: "Cisco ASR1000 SPA Interface Processor 10"
PID: MCP-CC        , VID: V00, SN: JAB1104062X

NAME: "SPA subslot 1/3", DESCR: "4-port OC3/STM1 POS Shared Port Adapter"
PID: SPA-4XOC3-POS , VID: V01, SN: JAB085202QU

NAME: "subslot 1/3 transceiver 0", DESCR: "OC3 SR-1/STM1 MM"
PID: SFP-OC3-MM     , VID: A   , SN: OCP12310174

NAME: "module 2", DESCR: "Cisco ASR1000 SPA Interface Processor 10"
PID: ASR1000-SIP10 , VID: V00, SN: JAB113701L9

NAME: "SPA subslot 2/3", DESCR: "1-port OC12/STM4 POS Shared Port Adapter"
PID: SPA-1XOC12-POS , VID: V01, SN: JAE1236U41L

NAME: "subslot 2/3 transceiver 0", DESCR: "OC12 SR-1/STM4 MM"
PID: SFP-OC12-MM    , VID: A   , SN: OCP10100281

NAME: "module R0", DESCR: "Cisco ASR1000 Route Processor 1"
PID: ASR1000-RP1    , VID: V00, SN: JAB11110181

NAME: "module R1", DESCR: "Cisco ASR1000 Route Processor 1"
PID: ASR1000-RP1    , VID: V00, SN: JAB1111016K

NAME: "module F0", DESCR: "Cisco ASR1000 Embedded Services Processor, 10Gbps"
PID: ASR1000-ESP10 , VID: V00, SN: JAB111801ZX

NAME: "module F1", DESCR: "Cisco ASR1000 Embedded Services Processor, 10Gbps"
PID: ASR1000-ESP10 , VID: V00, SN: JAB111101AP

NAME: "Power Supply Module 0", DESCR: "Cisco ASR1006 AC Power Supply"
PID: TBD0000000000000000, VID: +^A , SN: ART1114Q00F

NAME: "Fan Module 1", DESCR: "Cisco ASR1006 Fan Module"
PID: TBD0000000000000000, VID: +^A , SN: ART1115P00D

```

XML 形式での Syslog アラート通知の例

次に、XML 形式での Syslog アラート通知の例を示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
<soap-env:Header>
<aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.cisco.com/2004/01/aml-session"
soap-env:mustUnderstand="true"
soap-env:role="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
<aml-session:To>http://tools.cisco.com/neddce/services/DDCEService</aml-session:To>
<aml-session:Path>
<aml-session:Via>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:Via>
</aml-session:Path>
<aml-session:From>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:From>
<aml-session:MessageId>M0:FOX105101DH:CEC1E73E</aml-session:MessageId>
</aml-session:Session>
</soap-env:Header>

```

```

<soap-env:Body>
<aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.cisco.com/2004/01/aml-block">
<aml-block:Header>
<aml-block:Type>http://www.cisco.com/2005/05/callhome/syslog</aml-block:Type>
<aml-block:CreationDate>2009-12-03 12:29:02 GMT+05:00</aml-block:CreationDate>
<aml-block:Builder>
<aml-block:Name>ASR1000</aml-block:Name>
<aml-block:Version>2.0</aml-block:Version>
</aml-block:Builder>
<aml-block:BlockGroup>
<aml-block:GroupId>G1:FOX105101DH:CEC1E73E</aml-block:GroupId>
<aml-block:Number>0</aml-block:Number>
<aml-block:IsLast>true</aml-block:IsLast>
<aml-block:IsPrimary>true</aml-block:IsPrimary>
<aml-block:WaitForPrimary>>false</aml-block:WaitForPrimary>
</aml-block:BlockGroup>
<aml-block:Severity>2</aml-block:Severity>
</aml-block:Header>
<aml-block:Content>
<ch:CallHome xmlns:ch="http://www.cisco.com/2005/05/callhome" version="1.0">
<ch:EventTime>2009-12-03 12:29:01 GMT+05:00</ch:EventTime>
<ch:MessageDescription>*Dec 3 12:29:01.017 IST: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all
interfaces by console</ch:MessageDescription>
<ch:Event>
<ch:Type>syslog</ch:Type>
<ch:SubType></ch:SubType>
<ch:Brand>Cisco Systems</ch:Brand>
<ch:Series>ASR1000 Series Routers</ch:Series>
</ch:Event>
<ch:CustomerData>
<ch:UserData>
<ch:Email>username@example.com</ch:Email>
</ch:UserData>
<ch:ContractData>
<ch:CustomerId>username@example.com</ch:CustomerId>
<ch:SiteId>example.com</ch:SiteId>
<ch:ContractId>123456789</ch:ContractId>
<ch:DeviceId>ASR1006@C@FOX105101DH</ch:DeviceId>
</ch:ContractData>
<ch:SystemInfo>
<ch>Name>mcp-6ru-3</ch>Name>
<ch>Contact></ch>Contact>
<ch>ContactEmail>username@example.com</ch>ContactEmail>
<ch>ContactPhoneNumber>+14085551234</ch>ContactPhoneNumber>
<ch:StreetAddress>1234 Any Street Any City Any State 12345</ch:StreetAddress>
</ch:SystemInfo>
<ch:CCOID></ch:CCOID>
</ch:CustomerData>
<ch:Device>
<rme:Chassis xmlns:rme="http://www.cisco.com/rme/4.0">
<rme:Model>ASR1006</rme:Model>
<rme:HardwareVersion>2.1</rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>FOX105101DH</rme:SerialNumber>
<rme:AdditionalInformation>
<rme:AD name="PartNumber" value="68-2584-05" />
<rme:AD name="SoftwareVersion" value="" />
<rme:AD name="SystemObjectId" value="1.3.6.1.4.1.9.1.925" />
<rme:AD name="SystemDescription" value="Cisco IOS Software, IOS-XE Software
(PPC_LINUX_IOSD-ADVENTERPRISEK9-M), Experimental Version 12.2(20091118:075558)
[v122_33_xnf_asr_rls6_throttle-mcp_dev_rls6_102]
Copyright (c) 1986-2009 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Wed 18-Nov-09 01:14 by " />
</rme:AdditionalInformation>
</rme:Chassis>

```

```

</ch:Device>
</ch:CallHome>
</aml-block:Content>
<aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show logging</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain">
<![CDATA[
Syslog logging: enabled (1 messages dropped, 29 messages rate-limited, 0 flushes, 0
overruns, xml disabled, filtering disabled)

No Active Message Discriminator.

No Inactive Message Discriminator.

Console logging: disabled
Monitor logging: level debugging, 0 messages logged, xml disabled,
filtering disabled
Buffer logging: level debugging, 114 messages logged, xml disabled,
filtering disabled
Exception Logging: size (4096 bytes)
Count and timestamp logging messages: disabled
Persistent logging: disabled

No active filter modules.

Trap logging: level informational, 106 message lines logged

Log Buffer (1000000 bytes):

*Dec 3 07:16:55.020: ASR1000-RP HA: RF status CID 1340, seq 93, status
RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE, op 0, state DISABLED, peer DISABLED
*Dec 3 07:17:00.379: %ASR1000_MGMTVRF-6-CREATE_SUCCESS_INFO: Management vrf Mgmt-intf
created with ID 4085, ipv4 table-id 0xFF5, ipv6 table-id 0x1E000001
*Dec 3 07:17:00.398: %NETCLK-5-NETCLK_MODE_CHANGE: Network clock source not available.
The network clock has changed to freerun

*Dec 3 07:17:00.544: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface LI-Null0, changed
state to up
*Dec 3 07:17:00.545: %LINK-3-UPDOWN: Interface EOBC0, changed state to up
*Dec 3 07:17:00.545: %LINK-3-UPDOWN: Interface Lsmpi0, changed state to up
*Dec 3 07:17:00.546: %LINK-3-UPDOWN: Interface LIIN0, changed state to up
*Dec 3 07:17:00.546: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0, changed state to down
*Dec 3 07:17:01.557: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface EOBC0, changed state
to up
*Dec 3 07:17:01.557: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Lsmpi0, changed
state to up
*Dec 3 07:17:01.558: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface LIIN0, changed state
to up
*Dec 3 07:17:01.558: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0,
changed state to down
*Dec 3 07:17:01.818: %DYNCMD-7-CMDSET_LOADED: The Dynamic Command set has been loaded
from the Shell Manager
*Dec 3 07:16:30.926: %CMRP-5-PRERELEASE_HARDWARE: R0/0: cmand: 2 is pre-release hardware
*Dec 3 07:16:24.147: %HW_IDPROM_ENVMON-3-HW_IDPROM_CHECKSUM_INVALID: F1: cman_fp: The
idprom contains an invalid checksum in a sensor entry. Expected: 63, calculated: fe
*Dec 3 07:16:24.176: %CMFP-3-IDPROM_SENSOR: F1: cman_fp: One or more sensor fields from
the idprom failed to parse properly because Success.
*Dec 3 07:16:27.669: %CPPHA-7-START: F1: cpp_ha: CPP 0 preparing image
/tmp/sw/fp/1/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode

```

```

*Dec 3 07:16:27.839: %CPPHA-7-START: F1: cpp_ha: CPP 0 startup init image
/tmp/sw/fp/1/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:28.659: %CPPHA-7-START: F0: cpp_ha: CPP 0 preparing image
/tmp/sw/fp/0/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:28.799: %CPPHA-7-START: F0: cpp_ha: CPP 0 startup init image
/tmp/sw/fp/0/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:32.557: %CPPHA-7-START: F1: cpp_ha: CPP 0 running init image
/tmp/sw/fp/1/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:32.812: %CPPHA-7-READY: F1: cpp_ha: CPP 0 loading and initialization
complete
*Dec 3 07:16:33.532: %CPPHA-7-START: F0: cpp_ha: CPP 0 running init image
/tmp/sw/fp/0/0/fp/mount/usr/cpp/bin/cpp-mcplo-ucode
*Dec 3 07:16:33.786: %CPPHA-7-READY: F0: cpp_ha: CPP 0 loading and initialization
complete
*Dec 3 07:16:34.158: %IOSXE-6-PLATFORM: F1: cpp_cp: Process
CPP_PFILTER_EA_EVENT_API_CALL_REGISTER
*Dec 3 07:16:35.134: %IOSXE-6-PLATFORM: F0: cpp_cp: Process
CPP_PFILTER_EA_EVENT_API_CALL_REGISTER
*Dec 3 07:16:38.965: %CMRP-6-FP_HA_STATUS: R0/0: cmand: F0 redundancy state is Active
with ready Standby
*Dec 3 07:17:01.926: %DYNCMD-7-PKGINT_INSTALLED: The command package 'platform_trace' has
been successfully installed
*Dec 3 12:17:05.385 IST: %SYS-6-CLOCKUPDATE: System clock has been updated from 07:17:05
UTC Thu Dec 3 2009 to 12:17:05 IST Thu Dec 3 2009, configured from console by console.
*Dec 3 12:17:05.506 IST: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from memory by console
*Dec 3 12:17:05.508 IST: %ASR1000_OIR-6-REMSPA: SPA removed from subslot 0/2, interfaces
disabled
*Dec 3 12:17:05.508 IST: %ASR1000_OIR-6-REMSPA: SPA removed from subslot 1/3, interfaces
disabled
*Dec 3 12:17:05.508 IST: %ASR1000_OIR-6-REMSPA: SPA removed from subslot 2/3, interfaces
disabled
*Dec 3 12:17:05.514 IST: %SPA_OIR-6-OFFLINECARD: SPA (SPA-8XOC3-POS) offline in subslot
0/2
*Dec 3 12:17:05.515 IST: %SPA_OIR-6-OFFLINECARD: SPA (SPA-4XOC3-POS) offline in subslot
1/3
*Dec 3 12:17:05.516 IST: %SPA_OIR-6-OFFLINECARD: SPA (SPA-1XOC12-POS) offline in subslot
2/3
*Dec 3 12:17:05.520 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (rp) inserted in slot R1
*Dec 3 12:17:05.521 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (fp) inserted in slot F0
*Dec 3 12:17:05.521 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (fp) online in slot F0
*Dec 3 12:17:05.574 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (fp) inserted in slot F1
*Dec 3 12:17:05.574 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (fp) online in slot F1
*Dec 3 12:17:05.575 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (cc) inserted in slot 0
*Dec 3 12:17:05.575 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (cc) online in slot 0
*Dec 3 12:17:05.576 IST: %ASR1000_OIR-6-INSSPA: SPA inserted in subslot 0/2
*Dec 3 12:17:05.580 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (cc) inserted in slot 1
*Dec 3 12:17:05.581 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (cc) online in slot 1
*Dec 3 12:17:05.582 IST: %ASR1000_OIR-6-INSSPA: SPA inserted in subslot 1/3
*Dec 3 12:17:05.582 IST: %ASR1000_OIR-6-INSCARD: Card (cc) inserted in slot 2
*Dec 3 12:17:05.582 IST: %ASR1000_OIR-6-ONLINECARD: Card (cc) online in slot 2
*Dec 3 12:17:05.583 IST: %ASR1000_OIR-6-INSSPA: SPA inserted in subslot 2/3
*Dec 3 12:17:05.844 IST: %SYS-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, IOS-XE Software (PPC_LINUX_IOSD-ADVENTERPRISEK9-M), Experimental
Version 12.2(20091118:075558) [v122_33_xnf_asr_rls6_throttle-mcp_dev_rls6 102]
Copyright (c) 1986-2009 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Wed 18-Nov-09 01:14 by
*Dec 3 12:17:06.005 IST: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
*Dec 3 12:17:06.005 IST: %CRYPTO-6-GDOI_ON_OFF: GDOI is OFF
*Dec 3 12:16:30.097 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP2/3: Interface EOBC2/1, changed state to up
*Dec 3 12:16:27.595 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP0/2: Interface EOBC0/1, changed state to up
*Dec 3 12:16:26.420 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP1/3: Interface EOBC1/1, changed state to up
*Dec 3 12:17:07.435 IST: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
*Dec 3 12:17:07.435 IST: %CRYPTO-6-GDOI_ON_OFF: GDOI is OFF
*Dec 3 12:17:07.476 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0, changed state to up

```

```

*Dec 3 12:17:08.137 IST: %SPA_OIR-6-ONLINECARD: SPA (SPA-4XOC3-POS) online in subslot 1/3
*Dec 3 12:17:08.139 IST: %SPA_OIR-6-ONLINECARD: SPA (SPA-8XOC3-POS) online in subslot 0/2
*Dec 3 12:17:08.346 IST: %SPA_OIR-6-ONLINECARD: SPA (SPA-1XOC12-POS) online in subslot
2/3
*Dec 3 12:17:08.491 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface
GigabitEthernet0, changed state to up
*Dec 3 12:17:11.047 IST: %SYS-6-BOOTTIME: Time taken to reboot after reload = 12319
seconds
*Dec 3 12:17:11.562 IST: %IOSXE-5-PLATFORM: R0/0: xinetd[879]: xinetd Version 2.3.14
started with no options compiled in.
*Dec 3 12:17:11.562 IST: %IOSXE-5-PLATFORM: R0/0: xinetd[879]: Started working: 1
available service
*Dec 3 12:17:11.584 IST: %IOSXE-5-PLATFORM: R0/0: xinetd[887]: xinetd Version 2.3.14
started with no options compiled in.
*Dec 3 12:17:11.584 IST: %IOSXE-5-PLATFORM: R0/0: xinetd[887]: Started working: 2
available services
*Dec 3 12:17:13.753 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/0, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/1, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/2, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/3, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/4, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.754 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/5, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.755 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/6, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.755 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/7, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.755 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS2/3/0, changed state to down
*Dec 3 12:17:13.755 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS1/3/0, changed state to down
*Dec 3 12:17:14.753 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/0,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.753 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/1,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.753 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/2,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.754 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/3,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.754 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/4,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.754 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/5,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.754 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/6,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.755 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/7,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.848 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/1: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.848 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/2: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.849 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/3: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.849 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/4: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.849 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/5: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.850 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/6: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.850 IST: %SONET-4-ALARM: POS0/2/7: SLOS declared
*Dec 3 12:17:14.850 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS2/3/0,
changed state to down
*Dec 3 12:17:14.851 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS1/3/0,
changed state to down
*Dec 3 12:17:16.069 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS0/2/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:15.734 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP0/2: Interface POS0/2/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:16.868 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS1/3/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:16.905 IST: %LINK-3-UPDOWN: Interface POS2/3/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:16.538 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP0/2: Interface POS0/2/7, changed state to
down
*Dec 3 12:17:17.070 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS0/2/0,
changed state to up
*Dec 3 12:17:16.488 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIPl/3: Interface POS1/3/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:17.868 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS1/3/0,
changed state to up

```

```

*Dec 3 12:17:16.199 IST: %LINK-3-UPDOWN: SIP2/3: Interface POS2/3/0, changed state to up
*Dec 3 12:17:17.905 IST: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS2/3/0,
changed state to up
*Dec 3 12:22:01.574 IST: %IP-4-DUPADDR: Duplicate address 172.27.55.233 on
GigabitEthernet0, sourced by 001a.3044.1ec0
*Dec 3 12:23:47.613 IST: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Dec 3 12:24:37.134 IST: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all interfaces by console
*Dec 3 12:25:34.356 IST: %DIAG-3-TEST_FAIL: slot R0: TestErrorCounterMonitor{ID=1} has
failed. Error code = 0x1 (DIAG_FAILURE)
*Dec 3 12:25:39.459 IST: %DIAG-3-TEST_FAIL: slot R0: TestErrorCounterMonitor{ID=1} has
failed. Error code = 0x1 (DIAG_FAILURE)
*Dec 3 12:25:54.405 IST: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Dec 3 12:26:02.319 IST: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all interfaces by console
*Dec 3 12:28:56.057 IST: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
mcp-6ru-3#]]></aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show inventory</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain">
<![CDATA[NAME: "Chassis", DESCR: "Cisco ASR1006 Chassis"
PID: ASR1006          , VID: V00, SN: FOX105101DH

NAME: "module 0", DESCR: "Cisco ASR1000 SPA Interface Processor 10"
PID: MCP-CC          , VID: V00, SN: JAB1104064W

NAME: "SPA subslot 0/2", DESCR: "8-port OC3/STM1 POS Shared Port Adapter"
PID: SPA-8XOC3-POS   , VID: V01, SN: JAE1236T5W0

NAME: "subslot 0/2 transceiver 0", DESCR: "OC3 SR-1/STM1 MM"
PID: SFP-OC3-MM      , VID: A   , SN: OCP12231628

NAME: "module 1", DESCR: "Cisco ASR1000 SPA Interface Processor 10"
PID: MCP-CC          , VID: V00, SN: JAB1104062X

NAME: "SPA subslot 1/3", DESCR: "4-port OC3/STM1 POS Shared Port Adapter"
PID: SPA-4XOC3-POS   , VID: V01, SN: JAB085202QU

NAME: "subslot 1/3 transceiver 0", DESCR: "OC3 SR-1/STM1 MM"
PID: SFP-OC3-MM      , VID: A   , SN: OCP12310174

NAME: "module 2", DESCR: "Cisco ASR1000 SPA Interface Processor 10"
PID: ASR1000-SIP10   , VID: V00, SN: JAB113701L9

NAME: "SPA subslot 2/3", DESCR: "1-port OC12/STM4 POS Shared Port Adapter"
PID: SPA-1XOC12-POS  , VID: V01, SN: JAE1236U41L

NAME: "subslot 2/3 transceiver 0", DESCR: "OC12 SR-1/STM4 MM"
PID: SFP-OC12-MM     , VID: A   , SN: OCP10100281

NAME: "module R0", DESCR: "Cisco ASR1000 Route Processor 1"
PID: ASR1000-RP1     , VID: V00, SN: JAB11110181

NAME: "module R1", DESCR: "Cisco ASR1000 Route Processor 1"
PID: ASR1000-RP1     , VID: V00, SN: JAB1111016K

NAME: "module F0", DESCR: "Cisco ASR1000 Embedded Services Processor, 10Gbps"
PID: ASR1000-ESP10   , VID: V00, SN: JAB111801ZX

NAME: "module F1", DESCR: "Cisco ASR1000 Embedded Services Processor, 10Gbps"
PID: ASR1000-ESP10   , VID: V00, SN: JAB111101AP

NAME: "Power Supply Module 0", DESCR: "Cisco ASR1006 AC Power Supply"
PID: TBD0000000000000000, VID: +^A , SN: ART1114Q00F

```

```
NAME: "Fan Module 1", DESCR: "Cisco ASR1006 Fan Module"  
PID: TBD0000000000000000, VID: +^A , SN: ART1115P00D
```

```
Router#]]></aml-block:Data>  
</aml-block:Attachment>  
</aml-block:Attachments>  
</aml-block:Block>  
</soap-env:Body>  
</soap-env:Envelope>
```


その他の参考資料

この章では、Call Home 機能に関連する参考資料を説明します。

関連資料

関連項目	タイトル
Cisco IOS XE コマンド	『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』
Smart Call Home サービスが選択したシスコ デバイスに Web アクセスする方法、また予防的診断を行い、リアルタイム アラートを提供することでネットワークの可用性と運用効率を向上させる方法を説明します。	『 Smart Call Home User Guide 』
すべての関連製品の情報にアクセスするための Cisco.com の Smart Call Home のサイト ページ。	http://www.cisco.com/go/smartcall/
Cisco IOS XE ソフトウェアの公開キー インフラストラクチャ (PKI) と認証局の設定	『 Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity 』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-CALLHOME-MIB	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャ セットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 http://www.cisco.com/go/mibs

RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。また、この機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	—

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。</p> <p>以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクニカル サポートを受ける ・ソフトウェアをダウンロードする ・セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける ・ツールおよびリソースへアクセスする <ul style="list-style-type: none"> - Product Alert の受信登録 - Field Notice の受信登録 - Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索 ・Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する ・トレーニング リソースへアクセスする ・TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する <p>この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</p>

Call Home の機能情報

表 8 に、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータの機能のリリース履歴を示します。

ここに記載されていないこのテクノロジーの機能情報については、『*Cisco ASR 1000 Series Aggregation Services Routers Documentation Roadmap*』を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator を使用すると、特定のソフトウェア リリース、フィーチャ セット、またはプラットフォームをサポートする Cisco IOS XE のソフトウェア イメージを判別できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注) 表 8 に、特定の Cisco IOS XE ソフトウェア リリース群で特定の機能をサポートする Cisco IOS XE ソフトウェア リリースだけを示します。特に明記されていない限り、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース群の後続のリリースでもこの機能をサポートします。

表 8 Call Home の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Call Home	IOS XE Release 2.6	<p>Call Home を使用すると、E メールベースおよび Web ベースで重大なシステム イベントの通知を行えます。ポケットベル サービス、通常の電子メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの適切な互換性のために、さまざまなメッセージの形式が使用できます。</p> <p>Cisco IOS XE Release 2.6 では、この機能のサポートは、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ用に追加されました。</p> <p>show diagnostic コマンドが追加または変更されました。</p>